

**子どもの貧困の把握に関する
支援世帯向けアンケート調査(2019)
報告書**

2019 年 12 月

認定 NPO 法人フードバンク山梨



目次

I.	はじめに.....	2
II.	調査の概要.....	3
	1. 調査の目的	
	2. 調査方法と回収状況	
	3. 主な調査項目	
III.	調査の要点.....	4
IV.	考察.....	7
V.	調査結果.....	10
VI.	質問票.....	52



I. はじめに

認定NPO法人フードバンク山梨 理事長 米山けい子

日本では、豊かな暮らしが広がる一方、子どもの貧困の格差も広がり、貧困層が見えづらくなっている。

この度の調査は、見えない貧困の実態を可視化し、課題を見つけ、解決に向けた具体的な行動に結びつける事を目的としている。

フードバンク山梨は 2013 年から様々な調査を実施してきた。特に 2014 年に行った食生活調査では、貧困層では 1 人 1 日あたりの食費が 400 円未満の世帯が 76%で、不十分な食生活による子どもの健康や発達への悪影響が危惧された。その後全国初となる「フードバンクこども支援プロジェクト」(KSP)を開始した。

また 2016 年に実施した小中学校の教員へのアンケート調査では、保護者から先生に、苦しい生活状況などはほとんど相談がない事もわかった。学校で申請書を配布する際には、先生にも誰が支援を受けているか分からない方法で、これまで見えなかった多くの子ども達への支援が可能となった。

私たちからは、様々な調査や訪問で、厳しい困窮者の状況が見えているが、日本では子どもの貧困を語る時、「親がきちんと働いていないのではないか」「働けば何とかなる」といった空気がある。所謂自己責任論だ。しかし、私たちがここ 10 年支援している母子世帯などでは、ダブルワークやトリプルワークで、親が必死で働いているにもかかわらず、平均の収入の半分以下で暮らす子ども達が多くいる。さらに子どもの人数をみると 1 世帯あたりの平均は 2.1 人となっており、一般的な世帯の平均より多くなっている。少子化の中、次世代を担う子ども達を大切に育てていくことが急がれている。

アンケートの記述にも、「休みの日お米も空っぽで食べるものもなく、朝昼と何も食べる事が出来なかった」「子ども 2 人、夜、お腹がグーグーなりながらねたこともありました」「高校の部活に入部するにもものすごくお金がかかることを知り、とても払えず入部をあきらめました」など子どもを取り巻く環境の厳しさが浮き彫りになった。

本調査結果を受け、フードバンク山梨では、自己責任論的な社会の空気を払拭し、今支援を必要としている子ども達に社会が目を向け、早急な支援に繋がる事を目指している。

さらに、長時間労働で子育てに時間を割けず、心身ともに疲れている親に、利用者交流会の開催を計画している。交流会では親子で一日ゆったりとした時間を過ごしてもらい、アドバイザーに相談できる企画も準備したい。

フードバンク山梨が出来る事は小さいが、声を上げられない弱い立場の人達に、社会が関心を寄せ、「ワンチーム」となり行動を起こしていくことで、解決への大きな動きとなることを願っている。



Ⅱ. 調査の概要

1. 調査の目的

生活困窮世帯の現状を、当事者の現在や過去の生活・就労状況から明らかにすることを目的としている。

2. 調査方法と回収状況

調査対象: 連携機関(行政福祉課、社会福祉協議会、学校)を經由し、第 9 回目となる 2019 年夏の「フードバンクこども支援プロジェクト」にて食料支援を申請した子どものいる生活困窮世帯

調査方法: 2019 年夏の「フードバンクこども支援プロジェクト」の支援世帯に食品と共にアンケート票、及び返信用封筒を同封し郵送。各支援世帯で回答した後、返信用封筒により返送

調査期間: 2019 年 8 月 10 日～2019 年 8 月 31 日

回収状況:

調査世帯数	回収数	回収率
637	153	24.0%

3. 主な調査項目

- ・家族構成
- ・現在の生活の状況



Ⅲ. 調査の要点

● ひとり親になった原因（P11）

ひとり親になった原因は、「離婚」が 80.8%と最も多く、ついで「死別」、「未婚」が同じく 7.5%となっており、その他が 3.4%となっている。

● 雇用形態(P13)

ほとんどの回答者は就労している

回答者の雇用形態は、「パート・アルバイト」が 45.8%と最も多く、ついで「正規の職員・従業員」が 22.9%、「契約・嘱託・臨時・非常勤・派遣など」が 11.7%、「自営業主・家事主事者（主婦、主夫）・内職・在宅請負など」が 7.2%となっており、ほとんどの回答者(87.6%)が就労しているが、非正規雇用者は約 6 割となっている。

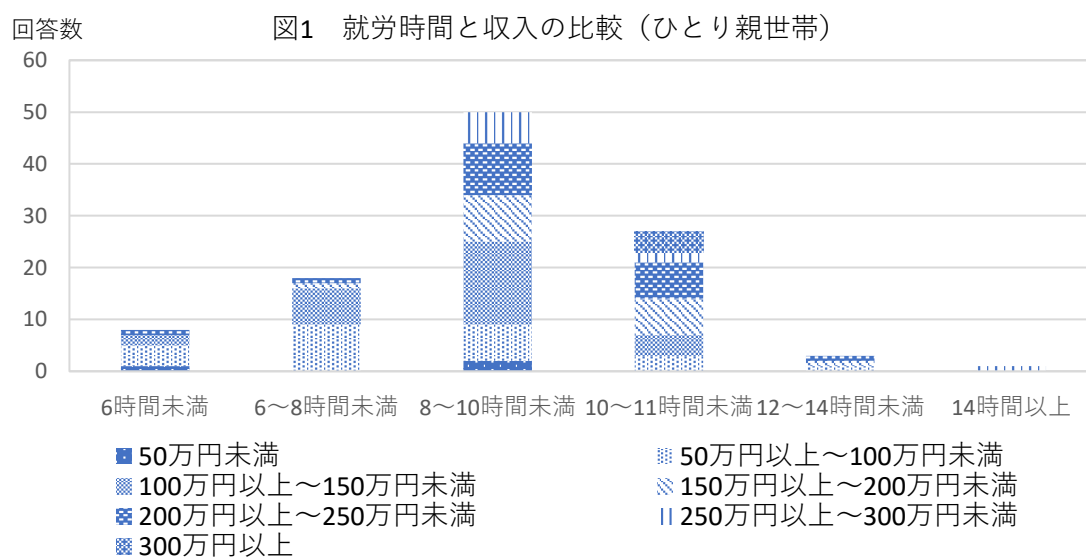
● 就労時間と収入(P14、15、37)

8 時間以上働いているが収入が少ない

回答者の 6 割以上が 8 時間以上の労働をしているが、世帯全体の 1 年間の収入については、「100 万円以上～150 万円未満」が 21.6%と最も多くなっている。

甲府市における生活困窮とする収入の目安¹では、大人 1 人、小学生 1 人の家族構成は、年収が約 240 万円で、大人 1 人、小学生 1 人、中学生 1 人では約 320 万円となっている。

本調査回答世帯の多くは大人 1 人あたり約 2 人の子どもがいることになる(ひとり親世帯は全体の 79.5%、子どもの平均人数は 2 人)。その内、収入が 250 万円未満は全体の 81.8%、300 万円未満は 89.6%となっており、大変厳しい状況にあるといえる。



¹ 甲府市教育委員会（2019）「就学援助制度のお知らせ」



- **貯蓄(P17-19)**

- 約 3 世帯に 1 世帯が貯蓄はない**

- 「あなたの貯蓄はいくらありますか。」の設問への回答は、「50 万円未満」が 37.3%と最も多く、ついで「貯蓄はない」が 29.4%となっており、約 3 世帯に 1 世帯は貯蓄がなく、7 割近く(66.7%)の回答者は 50 万円未満の貯蓄しかない。

- **1 ヶ月あたりの支出(P21)**

- 1 ヶ月の総支出額は一般世帯の約半分**

- 本調査世帯数で最も多い 3 人世帯と総務省が実施した「家計調査²」(2018)の 3 人世帯を比較すると、1 ヶ月あたりの総支出額は、158,275 円(本調査回答世帯)と 292,340 円(総務省)となっており、約半分であることが分かった。

- また、用途別に比較してみると、特に食費、医療費、娯楽費が大幅に下回る結果となっている。

- **年金の支払い(P22)**

- 年金を払っていないひとり親は 17.5%**

- 年金を払っていないひとり親世帯は、17.5%となっている。

- **理想的な子どもの進路と現実的な子どもの最終学歴 (P23-27)**

- 理想的な子どもの進路は、「大学またはそれ以上」が 34.0%と最も多く、ついで「短大・専門学校」が 31.4%、「高校」が 23.5%、「分からない」が 7.8%、「中学」が 0.7%となっている。

- 一方、現実的な子どもの最終学歴は、「大学またはそれ以上」が 10.4%、「短大・専門学校」が 17.0%と大幅に減少した一方で、「高校」(39.9%)、「中学」(3.9%)、「分からない」(26.8%)は増加した。

- **借金(P28-31)**

- 借金をしている世帯は 8 割近い**

- 借金をした経験がある回答者の内、現在も借金をしている回答者は 76.8%となっている。

- 借金の総額は、「50 万円未満」が 38.1%と最も多く、ついで「50 万円以上～100 万円未満」が 22.2%、「100 万円以上～150 万円未満」が 20.6%、「300 万円以上」が 11.1%、「150 万円以上～200 万円未満」が 6.4%、「250 万円以上～300 万円未満」が 1.6%、「200 万円以上～250 万円未満」が 0.0%となっている。

² 総務省 (2018) 「家計調査 世帯人員別 1 世帯当たり 1 ヶ月間の収入と支出」



- **悩みやストレス（P32、33）**

- 悩みやストレスがある世帯は 9 割以上**

- 「あなたは、現在、悩みやストレスはありますか。」の設問への回答は、「ある」が 90.2%となっている。

- 悩みやストレスの原因として「金銭面」が 89.9%と最も多く、ついで「子育て」が 54.3%、「仕事関係」が 42.0%、「子育て以外の家族との関係」が 21.0%、「その他」が 20.3%であった。その他には自身や家族の病という回答があった。

- **人間関係と地域の関係性（P34、35、40-42）**

- 相談できる人や病気になった時に身の回りの世話をしてくれる人が少なく、地域との関係性も薄い**

- 健康や育児に関する悩みを相談できる人について、「いない」が 19.6%、また病気になったときに身の回りの世話をしてくれる人について「いない」が 35.9%となっている。

- 「地域の人々は信頼できる」について、「どちらかというと思わない」「そうは思わない」の合計は 20.9%、「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」について、「どちらかというと思わない」「そうは思わない」の合計は 19.6%となっており、足立区の調査³と比較すると地域との関係性が薄いといえる。

- **フードバンク利用者交流会**

- フードバンク利用者同士の交流会に参加したい人は約 4 割（P36）**

- 「フードバンク利用者同士の交流会を開催したら、参加したいですか。」の設問に、「はい」と回答した人は約 4 割(39.2%)となっている。この結果を踏まえ、2020 年 1 月に交流会を開催する予定となっている。

³ 足立区（2016）「足立区子どもの健康・生活実態調査」



IV. 考察

北里大学医学部公衆衛生学 講師 可知悠子

調査回答者の大多数(76.2%)がひとり親世帯であったため、ここではひとり親世帯に焦点を当てて考察したい。

フードバンクを利用するひとり親世帯の特徴

まず、フードバンクを利用するひとり親世帯の特徴をみていきたい。厚生労働省「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査」によれば、母子世帯の平均収入は 348 万円、父子世帯では 573 万円であった。一方、本調査の回答者において、世帯年収で最も多いのは 100～150 万円未満で全体の 25.9%を占め、以下、50～100 万円未満(20.9%)、200～250 万円未満(16.7%)、150～200 万円未満(15.8%)、の順になっていた。年収に各種手当を含めないなどの誤回答が含まれる可能性を踏まえても、回答者の年収は、全国平均と比較して低い傾向にある。

当然、貯蓄額も少なくなる。厚生労働省の同調査では、母子世帯の貯蓄額 50 万円未満の割合は 39.7%であったが、本調査の回答者では 66.7%と 1.5 倍に上った。

また、回答者全体(ふたり親世帯含む)の 22.9%が正社員として雇用されており、その他は非正規雇用や自営業で働いていた。厚生労働省の同調査によれば、母子世帯の 44.2%が、父子世帯の 68.2%が正社員であることを考えると、回答者の正社員割合は低い。したがって、回答者はひとり親世帯の中でも、雇用が不安定で所得が低い層だと考えられる。

ひとり親世帯への就労支援として、「正社員の多様化」と「正社員化」の同時促進を

働いているひとり親世帯の内 8 割近くが、法定労働時間である 1 日 8 時間を超えて働いていた。しかし、前述の通り、8 割が非正規雇用や自営業による就労であるため、全体的に年収が低い。ひとり親世帯が 1 日 8 時間までの労働で普通に生活ができるよう、「正社員化」や「最低賃金の引上げ」、「児童扶養手当等の増額」が必要である。

日本の正社員は、職務、勤務地、労働時間が限定されないのが特徴であり、転勤や長時間労働を伴いやすく、子育て中の母親は正社員になることを躊躇しがちである。本調査の自由回答にも、「正社員で働いて行きたいが、子供の事を思うと今は無理だと思う」という回答があった。

ひとり親の就労支援においては、単純に正社員化を促進するだけでなく、正社員の多様化(具体的には、勤務地や労働時間が限定された「限定正社員」の導入)を同時に進める必要がある。



ひとり親の家事・育児を含めた労働時間は過労死ライン超え

働いているひとり親世帯の内 8 割近くが 1 日 8 時間超えの長時間労働を行っているため、育児に時間が割けないのではないかと思われる。しかし、回答者が 1 日に「子どもの世話」にかかる時間は 2.1 時間と、就労女性の平均的な育児時間である 0.9 時間（総務省「平成 28 年度社会生活基本調査」）よりも多かった。本調査と社会生活基本調査は調査方法が異なるため、単純には比較できないものの、回答者の多くは長時間労働で疲れているにも関わらず、必死に育児をこなしている様子がうかがえる。

回答者の家事時間（入浴、食事含む）は 5.6 時間であり、ここから入浴と食事に必要な 2.5 時間を引くと純粋な家事時間は 3.1 時間となる（平成 28 年度社会生活基礎調査では 35～44 歳女性における入浴時間の平均は 0.6 時間、1 日の食事時間の平均は 1.9 時間である）。この家事時間 3.1 時間と育児時間 2.1 時間を併せると、家庭内労働時間の合計は 5.2 時間となる。これに、家庭外の就労時間の 8.2 時間を足したわせると 13.4 時間である。これは、1 日に 5.4 時間の残業をしていることに匹敵し、月当たりでは 108 時間（＝5.4 時間×20 日）となる。土日の家事・育児を入れると、もっと多くなるはずだ。

残業が発症前 1 カ月間で約 100 時間、または発症前 2～6 カ月間平均で月約 80 時間は、「過労死ライン」と呼ばれるが、ひとり親の労働時間は過労死ラインを超えている。したがって、過労による疲労が、親子の健康へ悪影響を及ぼしていないかが、懸念される。

ひとり親世帯を孤立させない取組みが必要

回答者の家事・育児を含む労働時間は過労死ラインを超えているため、疲労やストレスにより健康を損なう可能性が高い。実際、回答者の 90.2% が「悩みやストレス」があると回答しており、特に金銭面での悩みを抱えていた。一方、厚生労働省「平成 28 年度国民生活基礎調査」によると、40～49 歳で「悩みやストレス」がある者の割合は、女性で 58.7%、男性で 48.6% であった。これらはひとり親に限った値ではないため、単純に比較はできないが、回答者で「悩みやストレス」がある者の割合は、非常に高いと考えられる。

回答者は健康を損なうリスクが高いため、日頃から、地域や身近な人々とのつながりや、サポートがあると安心である。しかし、回答者の 18.3% は健康や育児に関する悩みを相談できる人がいないと答え、37.8% は病気になったとき、身の周りの世話をしてくれる人がいないと答えている。さらに、19.6% は「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」という設問に対して、「どちらかというと思うわない」あるいは「そう思うわない」と答えている。ひとり親が悩みやストレス、病気を抱えた際にサポートが受けられるよう、地域から孤立させない取組みが必要であろう。

以上、ひとり親世帯の回答に焦点を当てて、考察を行った。ふたり親世帯については、世帯数が少ないものの、ひとり親世帯と同様に、社会経済状況が厳しい。自由回答をみると、親が 2 人い



たとしても、親自身や子どもの病気により、両親のいずれかまたは両方が就労できないケースがみられる。

「夫が体調不良で私は育児休暇で収入がほとんどなかった時食べる事も大変でした」

「次女の体調が急にわるくなり、医師からさいごの準備をするよう言われ、夫も会社を休んでいてその間とその後の生活費を借金して生活していました」

「子供(上の子)が高校へ行き、援助の収入が減り、夫は体調不良で仕事にほとんど行けず収入減が私一人の為に貯金をおろしながら生活をしている事」

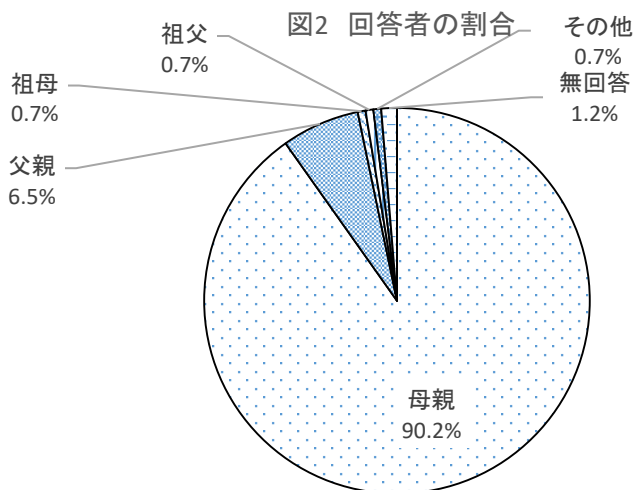
ふたり親世帯の貧困率(9.7%)はひとり親世帯(43.6%)と比べ低いものの、ふたり親世帯の数はひとり親世帯の数の 11 倍程度である(阿部彩「子どもの貧困率の動向:2012 から 2015 と長期的変動」)。ふたり親世帯の貧困はあまり注目されていないが、貧困状態の世帯数はひとり親世帯よりも多く、今後生活状況を詳しく探っていく必要がある。



V. 調査結果

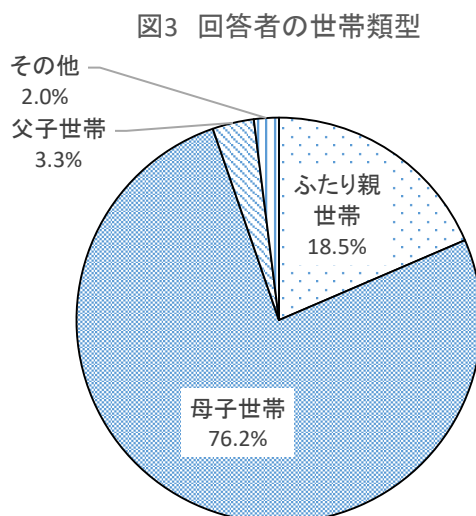
◆ 回答者の属性 (n=153)

回答者の属性をみると、「母親」が 138 人(90.2%)と最も多く、ついで「父親」が 10 人(6.5%)、「祖母」が 1 人(0.7%)、「祖父」が 1 人(0.7%)、「その他」が 1 人(0.7%)となっている。



◆ 回答者の世帯類型(n=151)

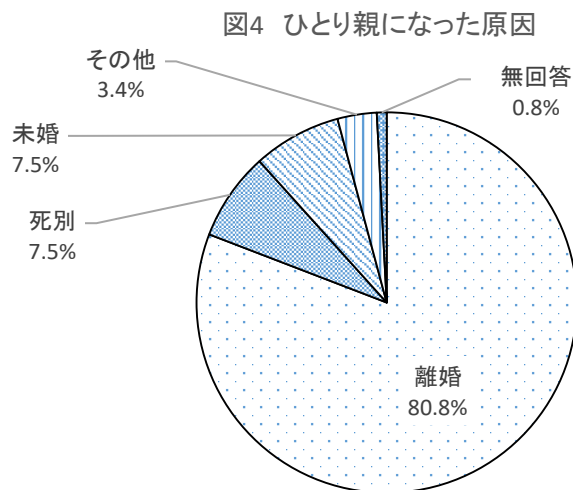
回答者の世帯類型をみると、「母子世帯」が 115 世帯(76.2%)と最も多く、ついで「ふたり親世帯」が 28 世帯(18.5%)、「父子世帯」が 5 世帯(3.3%)、「その他世帯」が 3 世帯(2.0%)となっている。





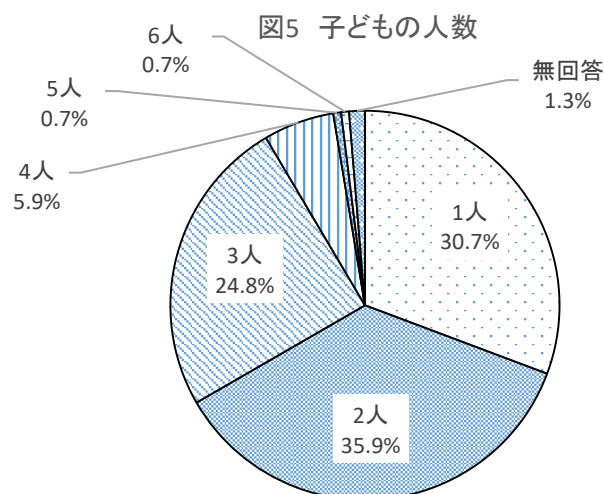
◆ ひとり親になった原因 (n=120)

ひとり親になった原因は、「離婚」が 97 世帯(80.8%)と最も多く、ついで「死別」が 9 世帯(7.5%)、「未婚」が 9 世帯(7.5%)となっており、その他が 4 世帯(3.4%)となっている。「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査結果報告⁴」では、母子世帯になった理由は、「離婚」が 79.5%、「死別」が 8.0%、「未婚」が 8.7%となっており、本調査回答者とほとんど同じ結果であった。



◆ 回答者の子どもの人数 (n=153)

回答者の子どもの人数をみると、2 人が 55 世帯(35.9%)と最も多く、ついで 1 人が 47 世帯(30.7%)、3 人が 38 世帯(24.8%)、4 人が 9 世帯(5.9%)、5 人が 1 世帯(0.7%)、6 人が 1 世帯(0.7%)となってる。約 7 割の回答世帯が子どもの人数が 2 人以上となっている。

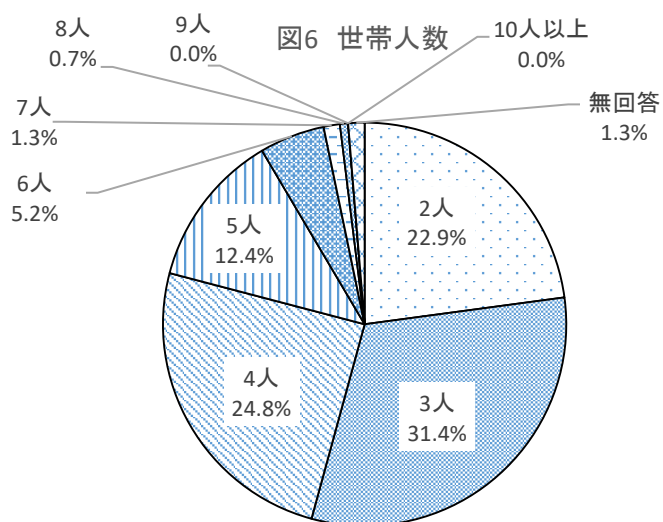


⁴ 厚生労働省 (2016) 「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査結果報告」



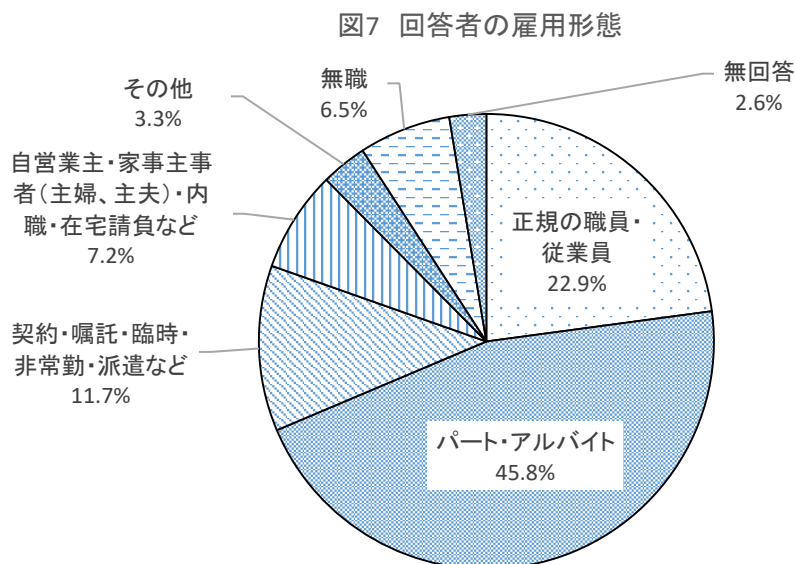
◆ 回答者の世帯人数 (n=153)

回答者の世帯人数をみると、3 人が 48 世帯(31.4%)と最も多く、ついで 4 人が 38 世帯(24.8%)、2 人が 35 世帯(22.9%)、5 人が 19 世帯(12.4%)、6 人が 8 世帯(5.2%)、7 人が 2 世帯(1.3%)、8 人が 1 世帯で(0.7%)となっている。





1. 回答者の雇用形態 (n=153)

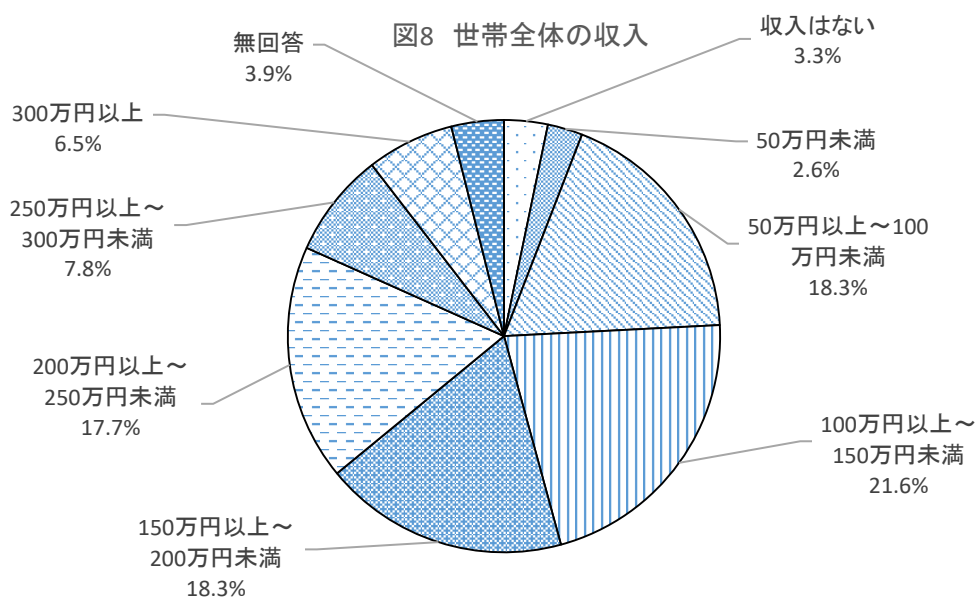


回答者の雇用形態は、「パート・アルバイト」が 45.8%と最も多く、ついで「正規の職員・従業員」が 22.9%「契約・嘱託・臨時・非常勤・派遣など」が 11.7%、「自営業主・家事主事者(主婦、主夫)・内職・在宅請負など」が 7.2%、「無職」が 6.5%、「その他」が 3.3%となっている。その他の回答には、「学生」、「育児休暇中」、「求職中」などの回答があった。

「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査結果報告」(厚生労働省)では、母子世帯の就労率が 81.8%で、正規の職員が 44.2%となっているが、本調査の母子世帯の就労率が 90.4%で、正規の職員が 24.6%となっており、ほとんどの母子世帯が就労しているが、非正規で働いている。



2. 世帯全体の1年間の収入 (n=153)



世帯全体の1年間の収入に対する回答は、「収入はない」が3.3%、「50万円未満」が2.6%、「50万円以上～100万円未満」が18.3%、「100万円以上～150万円未満」が21.6%、「150万円以上～200万円未満」が18.3%、「200万円以上～250万円未満」が17.7%となっており、250万円未満が全体の81.8%であった。

甲府市教育委員会の「就学援助制度のお知らせ」では、生活困窮とする収入の目安が、家族構成が大人1人小学生1人の場合は約240万円、大人1人中学生1人小学生1人の場合は約320万円、大人2人中学生1人小学生1人の場合は約370万円となっている。本調査回答世帯の内、ひとり親世帯は約8割(79.5%)となっており、子どもの人数の平均は、2.1人となっている。本調査回答者の多くは、ひとり親1世帯あたり約2人の子どもがいることになるので、大変厳しい状況にあるといえる。

図9 生活困窮とする収入のめやす(甲府市)

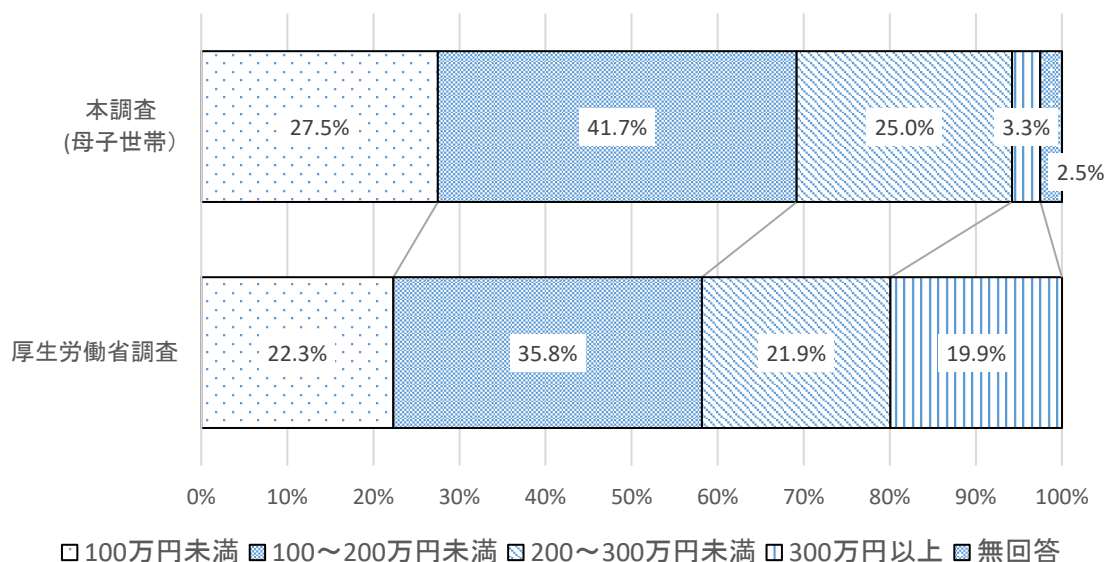
生活困窮とする 収入のめやす	家族構成	大人1人 小学生1人	大人1人 中学生1人 小学生1人	大人2人 中学生1人 小学生1人
	年間収入のめやす (同居する全員の 合計)	約240万円	約320万円	約370万円



クロス集計

本調査母子世帯 (n=115)

図10 母子世帯の収入(厚生労働省調査比較)

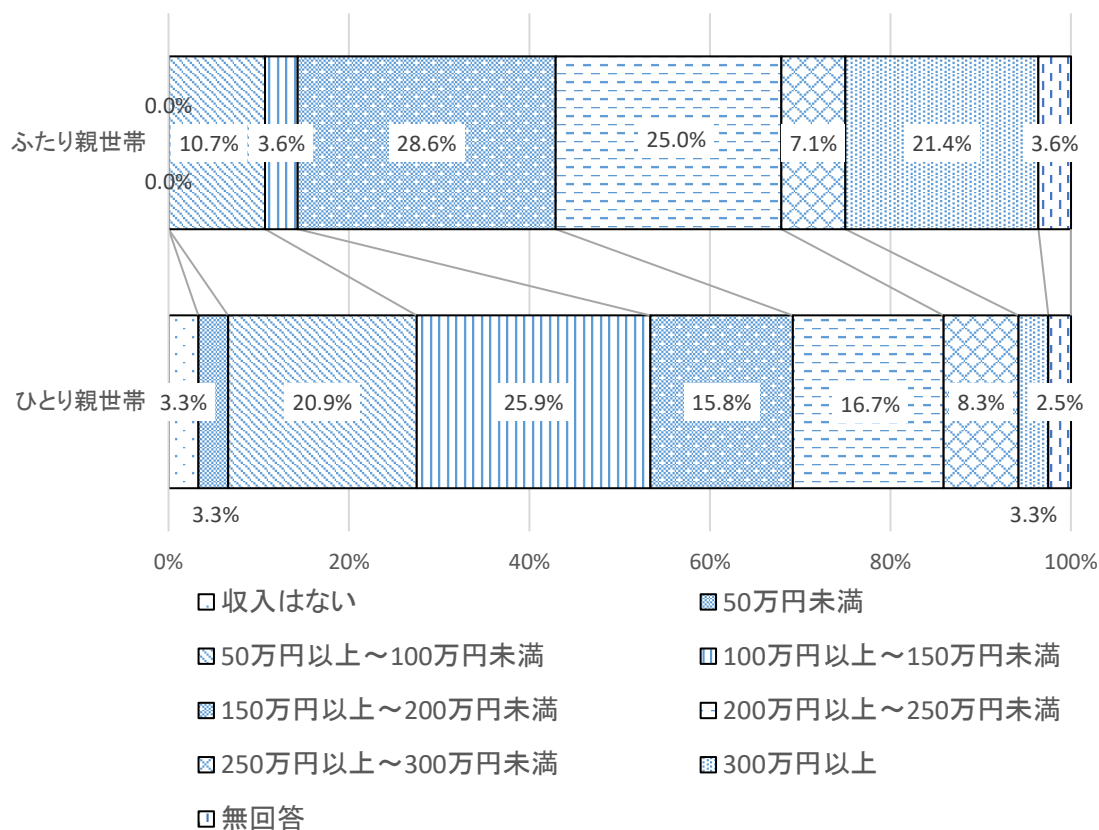


「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査結果報告」(厚生労働省)では、母子世帯の母親の年間就労収入の構成割合をみると、100 万円未満が 22.3%、100～200 万円未満が 35.8%、200～300 万円未満が 21.9%、300 万円以上が 19.9%となっている。本調査回答者は、100 万円未満が 27.5%、100～200 万円未満が 41.7%、200～300 万円未満が 25.0%、300 万円以上が 3.3%となっており、全国の母子世帯と比較をしても収入が低い世帯が多くなっている。



ふたり親世帯 (n=28)、ひとり親世帯 (n=120)

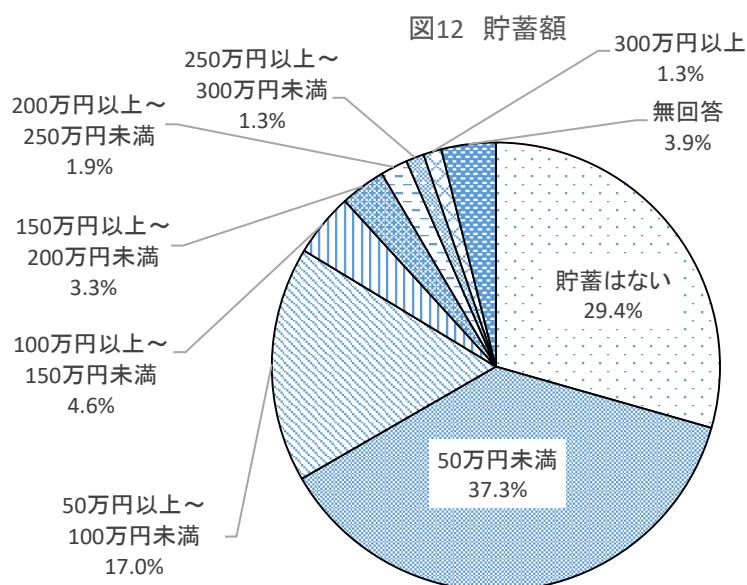
図11 世帯全体の1年間の収入(世帯別)



世帯類型別にみると、「収入はない」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 3.3%、「50 万円未満」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 3.3%、「50 万円以上～100 万円未満」は、ふたり親世帯が 10.7%、ひとり親世帯が 20.9%、「100 万円以上～150 万円未満」は、ふたり親世帯が 3.6%、ひとり親世帯が 25.9%、「150 万円以上～200 万円未満」は、ふたり親世帯が 28.6%、ひとり親世帯が 15.8%、「200 万円以上～250 万円未満」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 16.7%、「250 万円以上～300 万円未満」は、ふたり親世帯が 7.1%、ひとり親世帯が 8.3%、「300 万円以上」は、ふたり親世帯が 21.4%、ひとり親世帯が 3.3%となっている。



3. 回答者の貯蓄額 (n=153)



「あなたの貯蓄はいくらありますか。」の設問への回答は、「50万円未満」が37.3%と最も多く、ついで「貯蓄はない」が29.4%、「50万円以上～100万円未満」が17.0%、「100万円以上～150万円未満」が4.6%、「150万円以上～200万円未満」が3.3%、「200万円以上～250万円未満」が1.9%、「250万円以上～300万円未満」が1.3%、「300万円以上」が1.3%となっている。

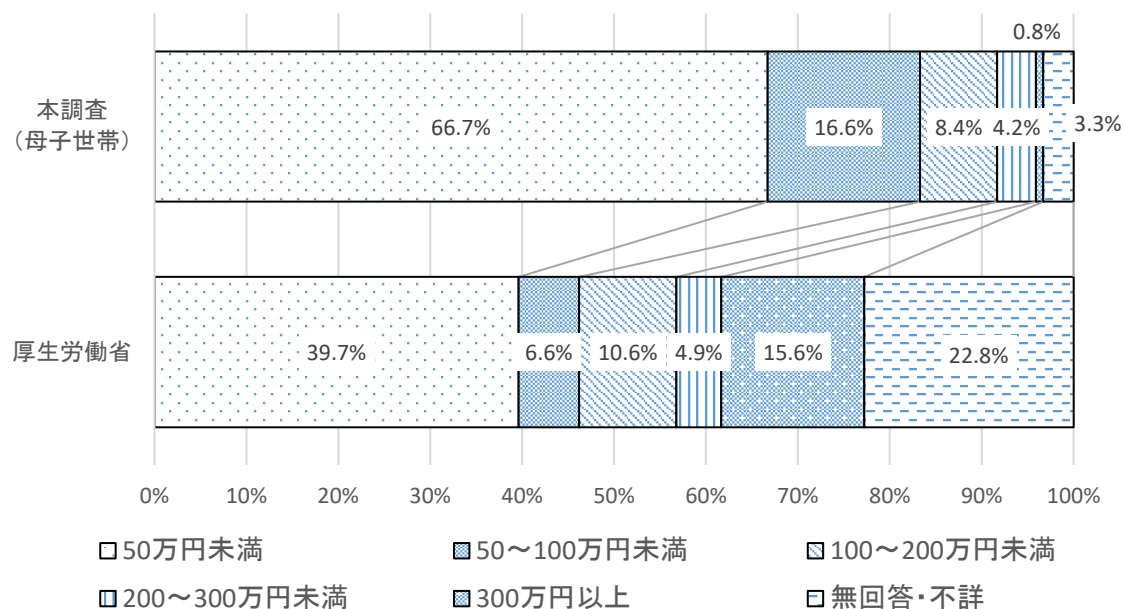
2018年に当団体の利用者を対象に実施したアンケート調査では、「貯蓄はない」の回答が53.5%、「50万円未満」が22.5%、「50万円以上～100万円未満」が12.5%となっており、「貯蓄はない」の回答は減少したが、貯蓄が100万円未満の回答は、今回が83.7%、昨년이88.5%であり、あまり変化がなかった。



クロス集計

本調査母子世帯 (n=115)

図13 貯蓄額(厚生労働省調査比較)

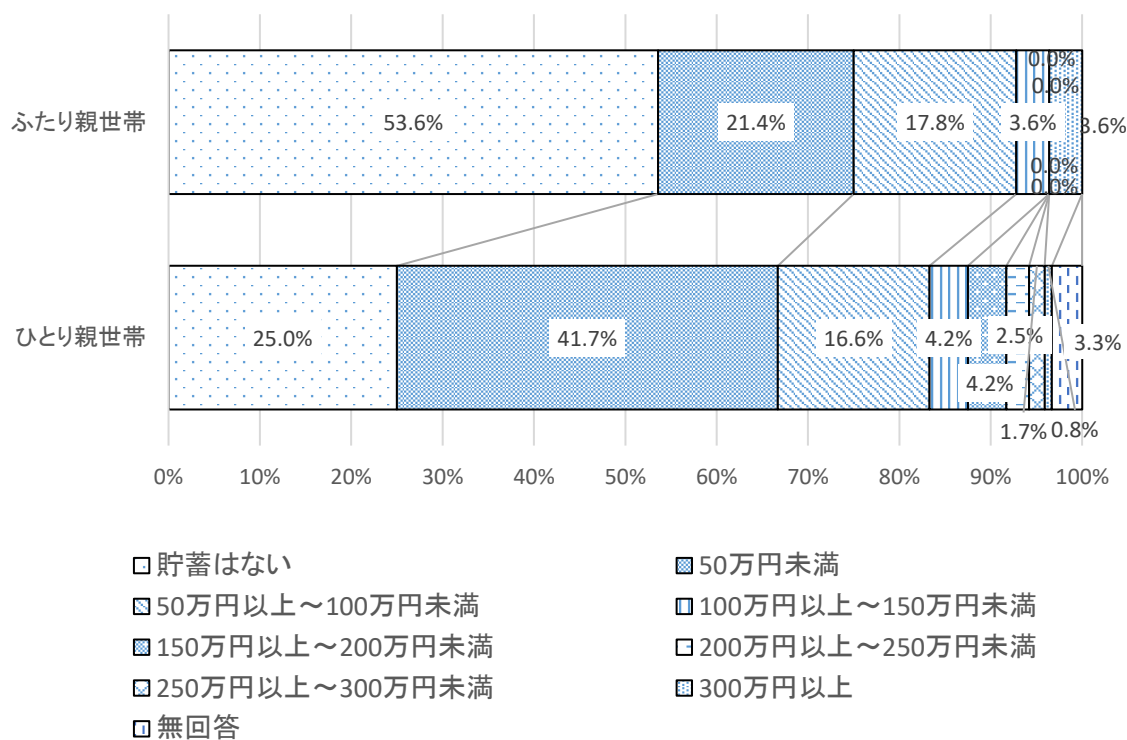


「平成 28 年度全国ひとり親世帯等調査結果報告」(厚生労働省)では、母子世帯の預貯金額は、50 万円未満が 39.7%、50～100 万円未満が 6.6%、100～200 万円未満が 10.6%、200～300 万円未満が 4.9%、300 万円以上が 15.6%となっており、本調査の母子世帯の方がより大変な状況にある。



ふたり親世帯 (n=28)、ひとり親世帯 (n=120)

図14 貯蓄額 (世帯別)

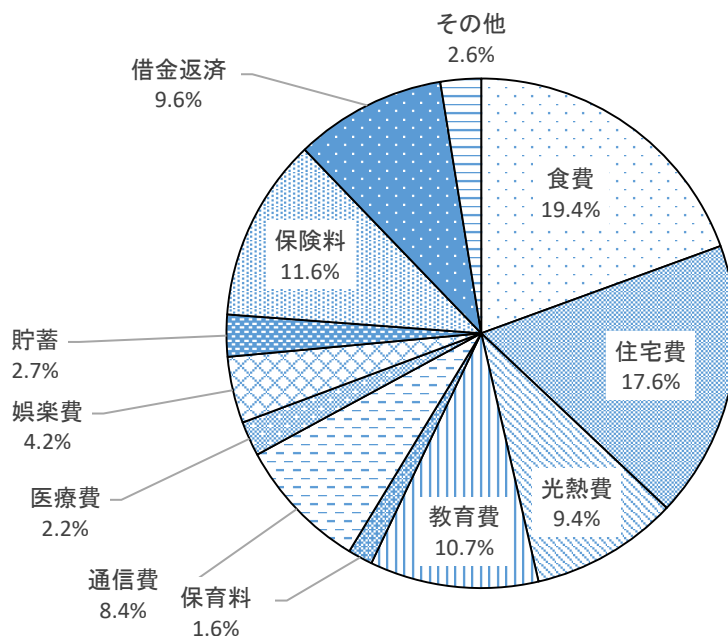


世帯類型別にみると、「貯蓄はない」の回答は、ふたり親世帯が 53.6%、ひとり親世帯が 25.0% となっており、ふたり親世帯はひとり親世帯と比べて、「貯蓄がない」の回答の割合が高くなっている。「50 万円未満」は、ふたり親世帯が 21.4%、ひとり親世帯が 41.7%、「50 万円以上～100 万円未満」は、ふたり親世帯が 17.8%、ひとり親世帯が 16.6%、「100 万円以上～150 万円未満」は、ふたり親世帯が 3.6%、ひとり親世帯が 4.2%、「150 万円以上～200 万円未満」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 4.2%、「200 万円以上～250 万円未満」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 1.7%、「250 万円以上～300 万円未満」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 1.7%、「300 万円以上」は、ふたり親世帯が 3.6%、ひとり親世帯が 0.8%となっている。



4. 1ヶ月の用途別にかかる支出（n=153）

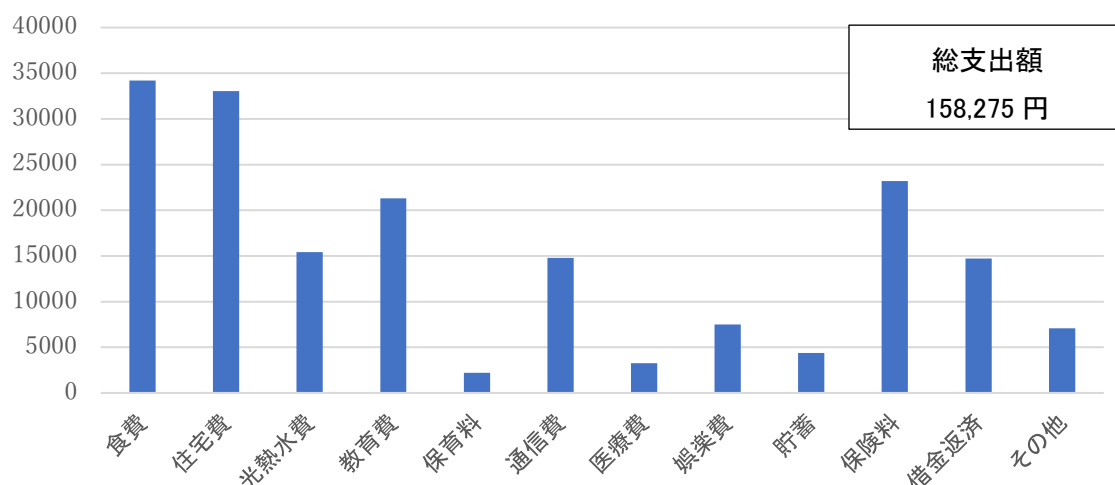
図15 1世帯の1ヵ月の用途別にかかる支出の割合



「1ヶ月の用途別にかかる支出」は、「食費」が 19.4%と最も多くなっており、ついで「住宅費」が 17.6%、「保険料」が 11.6%、「教育費」が 10.7%、「借金返済」が 9.6%、「光熱費」が 9.4%、「通信費」が 8.4%、「娯楽費」が 4.2%、「貯蓄」が 2.7%、「医療費」が 2.2%、「保育料」が 1.6%、「その他」が 2.6%となっている。



図16 3人世帯の1ヵ月の用途別にかかる支出金額



本調査世帯で最も多い3人世帯の1ヵ月の用途別にかかる支出金額をみると、「食費」が34,216 円、「住宅費」が33,044 円、「光熱水費」15,411 円、「教育費」が21,295 円、「保育料」が2,217 円、「通信費」が14,772 円、「医療費」が3,267 円、「娯楽費」が7,483 円、「貯蓄」が4,385 円、「保険料」が23,200 円、「借金返済」が14,714 円、「その他」が7,076 円となっている。

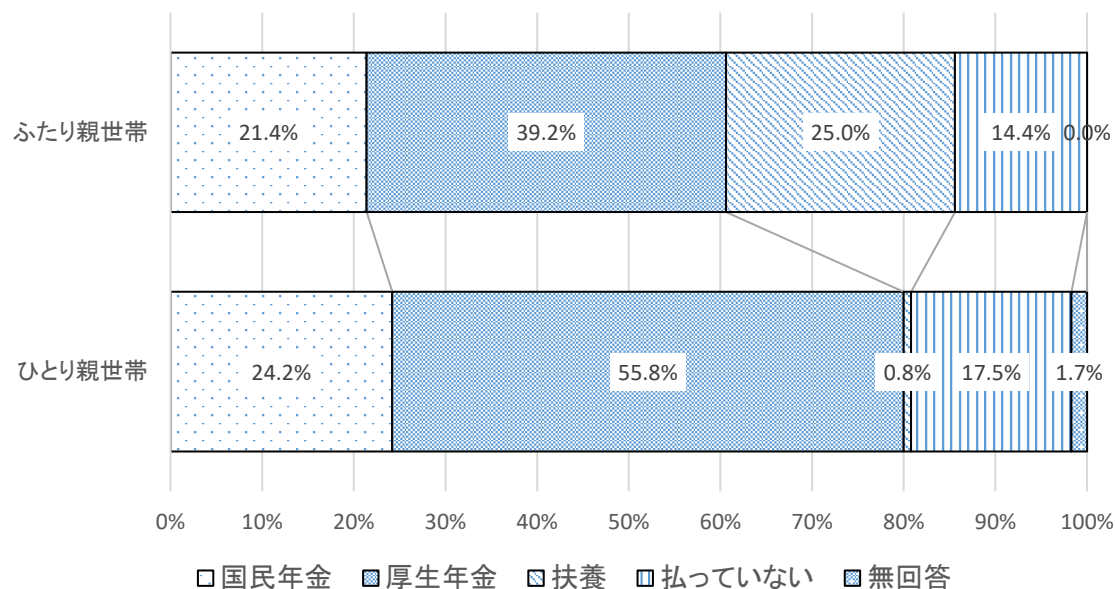
「家計調査」(総務省、2018)によると、3人世帯では、1ヶ月あたりの総支出額は292,340 円となっており、その内食費が75,063 円、住宅費が18,598 円(ただし持ち家率82.6%)、光熱費が22,833 円、教育費が9,978 円、通信費が14,007 円、医療費が13,147 円、娯楽費55,543 円(交際費が18,106 円、教養娯楽費が26,374 円、被服及び履物が11,063 円)となっている。調査項目が異なり一概には比較できないものの、本調査回答者の3人世帯と比較すると、1ヶ月あたりの総支出金額は約半分になっている。また、食費、光熱費、医療費、娯楽費が平均よりも低くなっており、特に医療費と娯楽費が大幅に下回る結果となっている。



5. 年金の支払い

ふたり親世帯（n=28）、ひとり親世帯（n=120）

図17 年金の支払(世帯別)

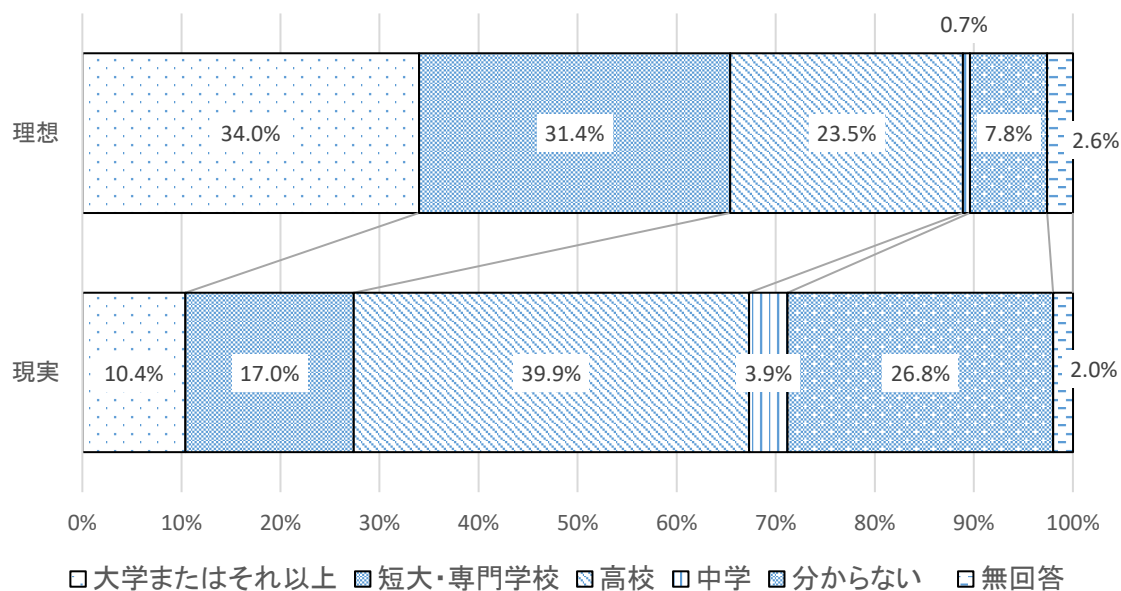


世帯類型別にみると、年金支払いについて、「国民年金」は、ふたり親世帯が 21.4%、ひとり親世帯が 24.2%、「厚生年金」は、ふたり親世帯が 39.2%、ひとり親世帯が 55.8%、「扶養」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 0.8%、「払っていない」は、ふたり親世帯が 14.4%、ひとり親世帯が 17.5%となっている。



6. 理想的な子どもの進路と現実的な子どもの最終学歴 (n=153)

図18 子どもの最終学歴の理想と現実



理想的な子どもの進路は、「大学またはそれ以上」が 34.0%と最も多く、ついで「短大・専門学校」が 31.4%、「高校」が 23.5%、「分からない」が 7.8%、「中学」が 0.7%となっている。

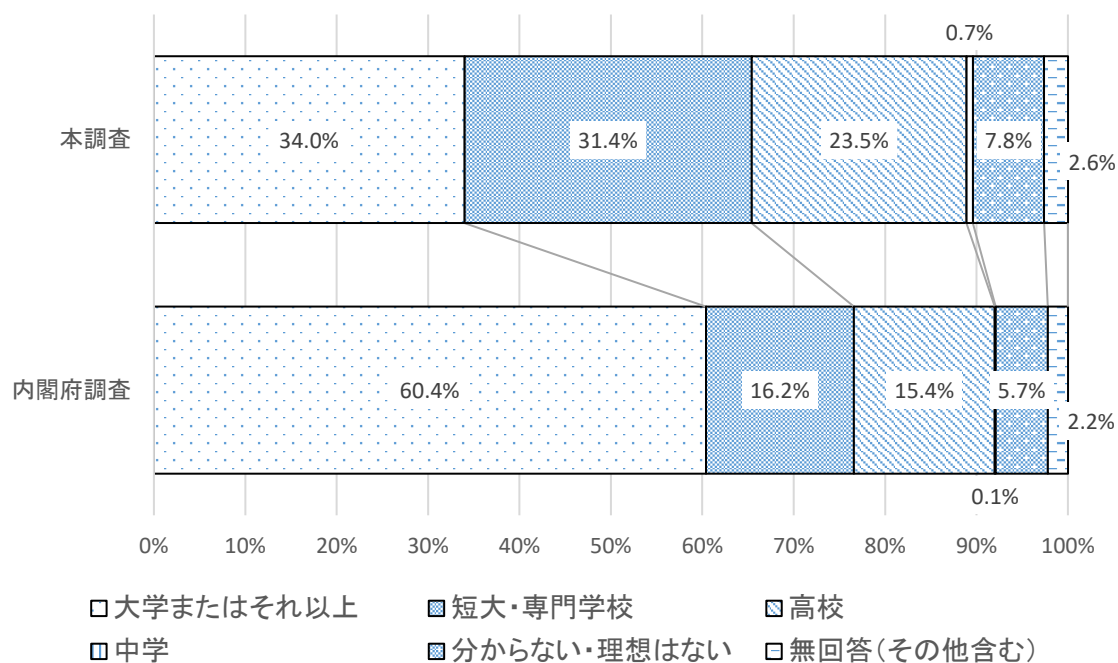
現実的な子どもの最終学歴については、「大学またはそれ以上」が 10.4%、「短大・専門学校」が 17.0%、「高校」が 39.9%、「中学」が 3.9%、「分からない」が 26.8%となっている。



クロス集計

本調査 (n=153)

図19 理想的な子どもの進路(内閣府調査比較)



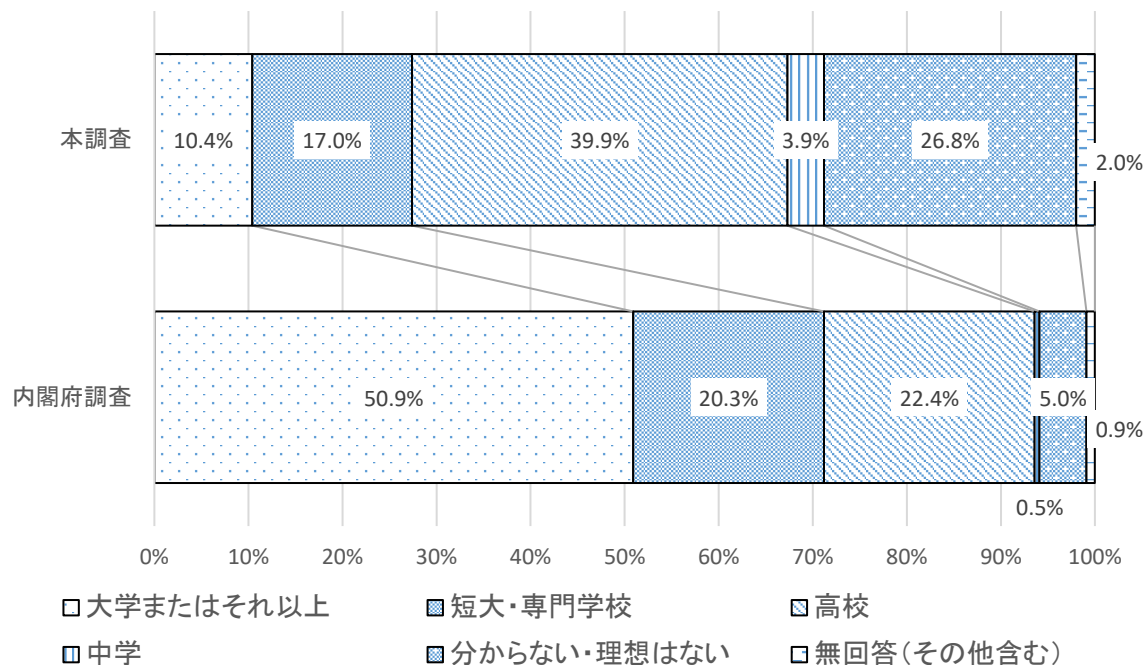
「親と子の生活意識に関する調査⁵」(内閣府)では、「子の理想的な学歴」に対する回答は、「大学・大学院まで」の合計が 60.4%、「短期大学・高等専門学校・専門学校」の合計が 16.2%、「高等学校」が 15.4%、「中学校」が 0.1%となっており、本調査回答世帯と比較すると、本調査回答世帯は子どもの理想的な進路が低い結果となった。

⁵ 内閣府 (2011) 「親と子の生活意識に関する調査」



本調査(n=153)

図20 現実的な子どもの最終学歴(内閣府調査比較)

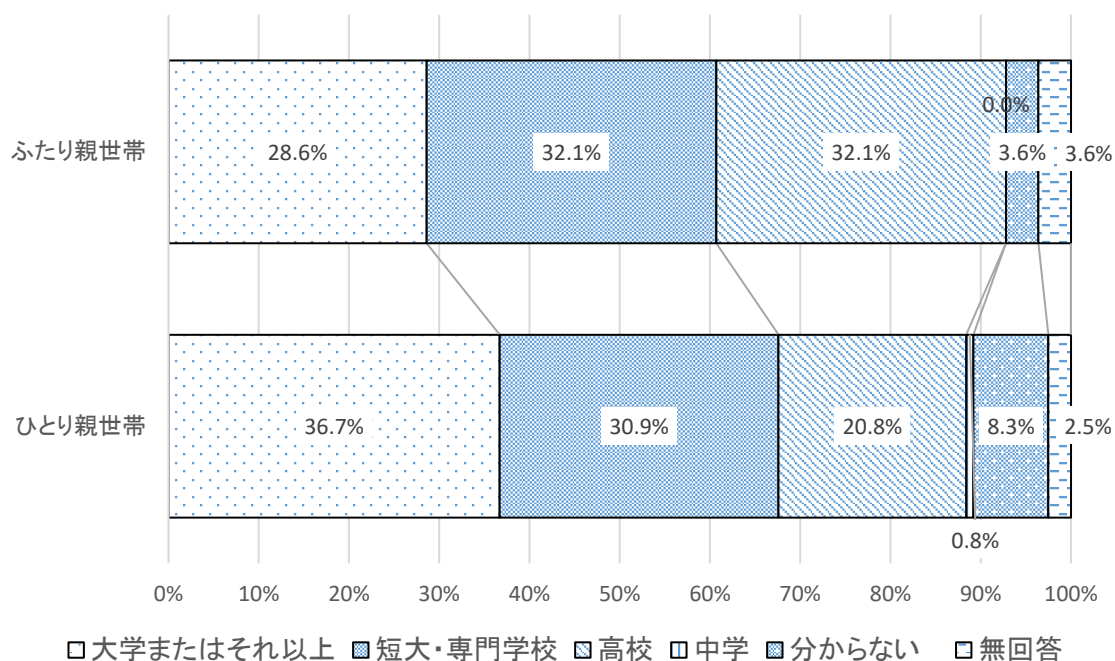


「親と子の生活意識に関する調査」(内閣府)では、「子の現実的な学歴」に対する回答は、「大学・大学院まで」の合計が 50.9%、「短期大学・高等専門学校・専門学校」の合計が 20.3%、「高等学校」が 22.4%、「中学校」が 0.5%、「わからない」が 5.0%となっており、本調査回答者と比較すると、本調査回答世帯は、「大学またはそれ以上」と「短大・専門学校」が低くなっており、「高校」、「中学」、「分からない」が上回っている。



ふたり親世帯 (n=28)、ひとり親世帯 (n=120)

図21 理想的な子どもの進路(世帯別)



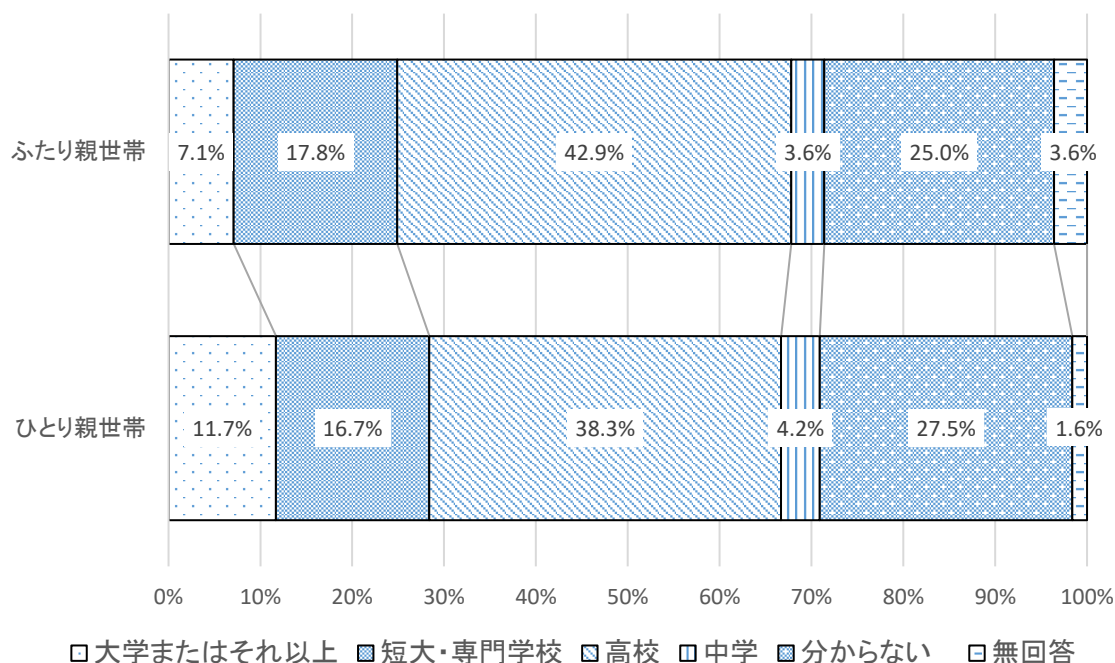
世帯類型別にみると、理想的な子どもの進路は、「大学またはそれ以上」は、ふたり親世帯が 28.6%、ひとり親世帯が 36.7%、「短大・専門学校」は、ふたり親世帯が 32.1%、ひとり親世帯が 30.9%、「高校」は、ふたり親世帯が 32.1%、ひとり親世帯が 20.8%、「中学」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 0.8%、「分からない」は、ふたり親世帯が 3.6%、ひとり親世帯が 8.3%となっている。

「親と子の生活意識に関する調査」(内閣府)では、「大学・大学院まで」の合計はふたり親世帯が 65.6%、ひとり親世帯が 38.5%、「短期大学・高等専門学校・専門学校」の合計はふたり親世帯が 14.9%、ひとり親世帯が 20.8%、「高等学校」はふたり親世帯が 12.2%、ひとり親世帯が 29.3%、「中学校」はふたり親世帯とひとり親世帯ともに 0.0%となっている。



ふたり親世帯 (n=28)、ひとり親世帯 (n=120)

図22 現実的な子どもの最終学歴(世帯別)



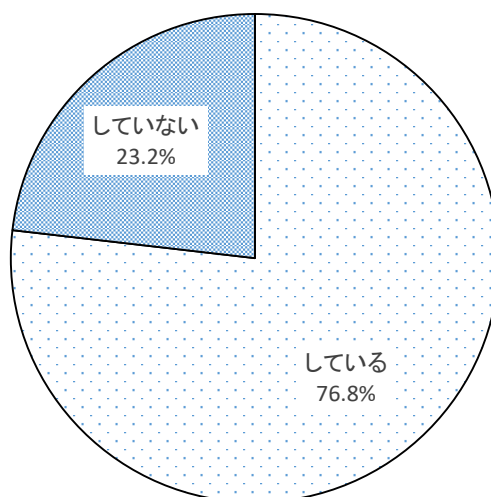
世帯類型別にみると、現実的な子どもの最終学歴は、「大学またはそれ以上」は、ふたり親世帯が 7.1%、ひとり親世帯が 11.7%、「短大・専門学校」は、ふたり親世帯が 17.8%、ひとり親世帯が 16.7%、「高校」は、ふたり親世帯が 42.9%、ひとり親世帯が 38.3%、「中学」は、ふたり親世帯が 3.6%、ひとり親世帯が 4.2%、「分からない」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 27.5%となっている。

「親と子の生活意識に関する調査」(内閣府)では、「大学・大学院まで」の合計はふたり親世帯が 55.9%、ひとり親世帯が 29.6%、「短期大学・高等専門学校・専門学校」の合計はふたり親世帯が 19.1%、ひとり親世帯が 26.2%、「高等学校」はふたり親世帯が 19.0%、ひとり親世帯が 38.3%、「中学校」はふたり親世帯が 0.2%、ひとり親世帯が 1.9%、「わからない」が 5.0%、3.1%となっている。



7. 現在の借金の有無(前問で借金をしたことが「ある」と答えた回答者) (n=82)

図23 現在の借金の有無



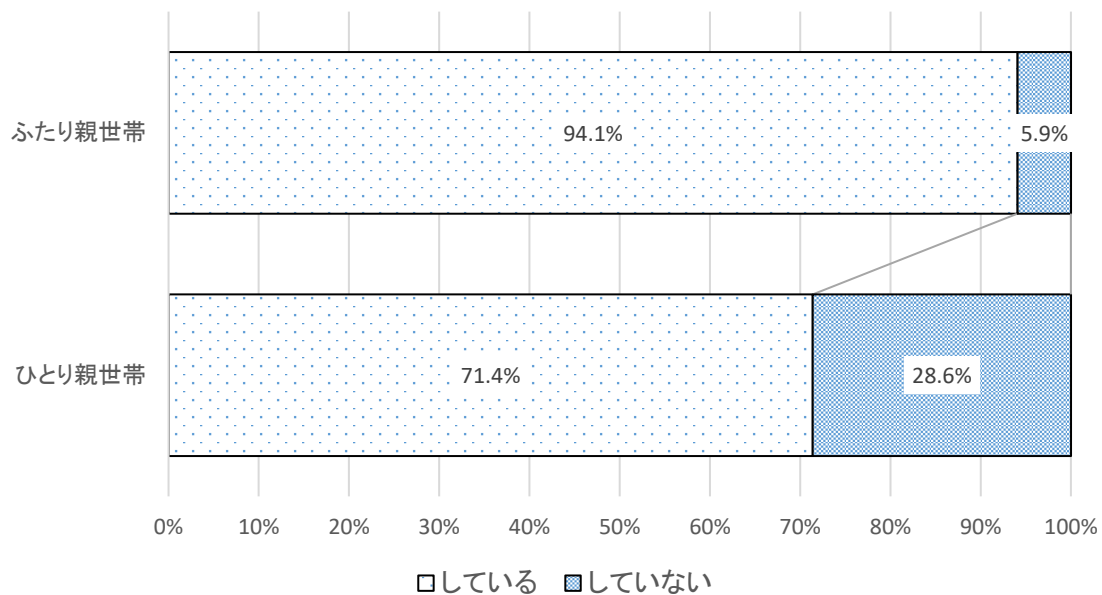
「あなたは現在借金をしていますか」の設問への回答は、「している」が 76.8%、「していない」が 23.2%となっている。

「平成 28 年度 国民生活基礎調査の概況」(厚生労働省)の児童のいる世帯の回答をみると、借入金が「ある」世帯は 53.5%、「ない」世帯は 41.5%と報告されている。

**クロス集計**

ふたり親世帯 (n=17)、ひとり親世帯 (n=63)

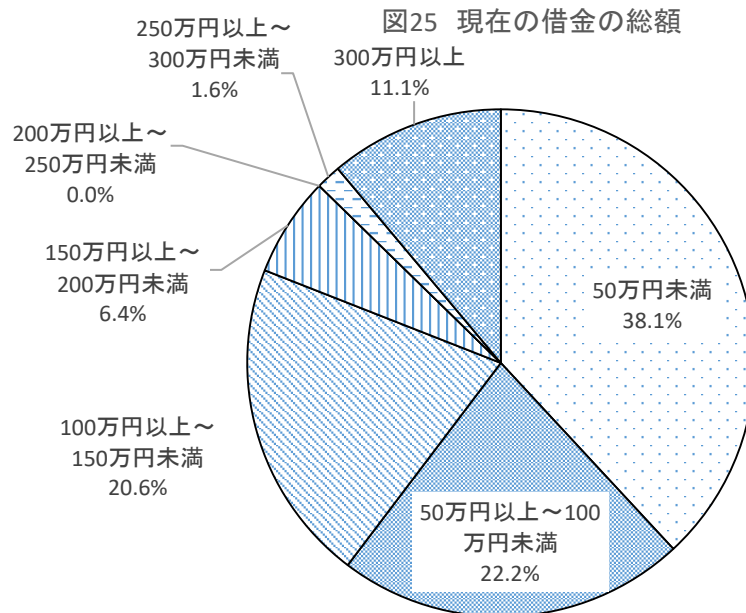
図24 現在の借金の有無（世帯別）



世帯類型別にみると、現在借金を「している」は、ふたり親世帯が 94.1%、ひとり親世帯が 71.4%となっており、ふたり親世帯はひとり親世帯と比べて、現在借金をしている割合が高くなっている。



8. 借金の総額（前問で現在借金を「している」と答えた回答者）（n=63）



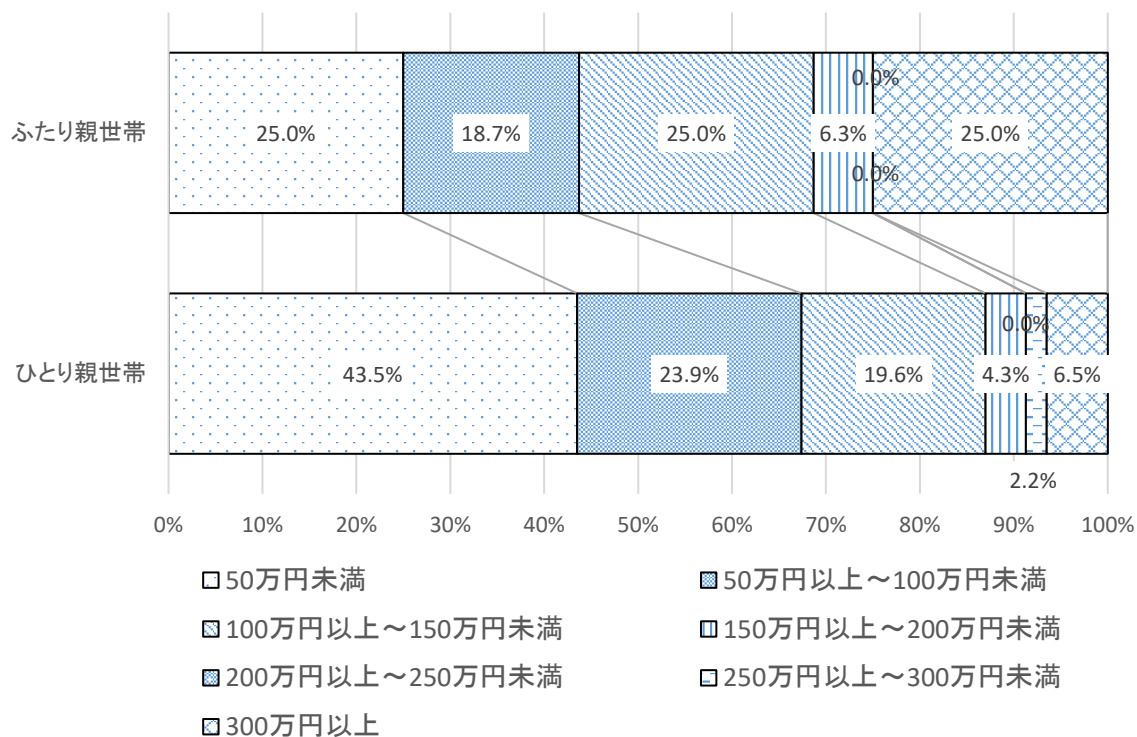
借金の総額は、「50 万円未満」が 38.1%と最も多く、ついで「50 万円以上～100 万円未満」が 22.2%、「100 万円以上～150 万円未満」が 20.6%、「300 万円以上」が 11.1%、「150 万円以上～200 万円未満」が 6.4%、「250 万円以上～300 万円未満」が 1.6%、「200 万円以上～250 万円未満」が 0.0%となっている。



クロス集計

ふたり親世帯 (n=16)、ひとり親世帯 (n=46)

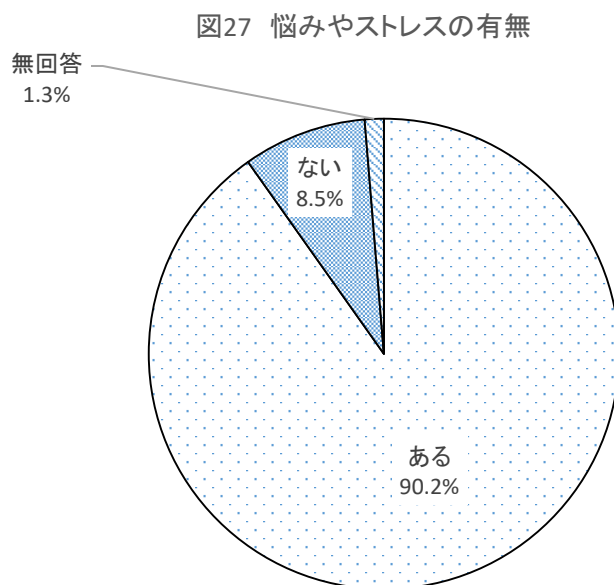
図26 借金の総額（世帯別）



世帯類型別にみると、借金の総額は、「50 万円未満」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 43.5%、「50 万円以上～100 万円未満」は、ふたり親世帯が 18.7%、ひとり親世帯が 23.9%、「100 万円以上～150 万円未満」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 19.6%、「150 万円以上～200 万円未満」は、ふたり親世帯が 6.3%、ひとり親世帯が 4.3%、「200 万円以上～250 万円未満」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 0.0%、「250 万円以上～300 万円未満」は、ふたり親世帯が 0.0%、ひとり親世帯が 2.2%、「300 万円以上」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 6.5%となっている。



9. 悩みやストレスの有無 (n=153)



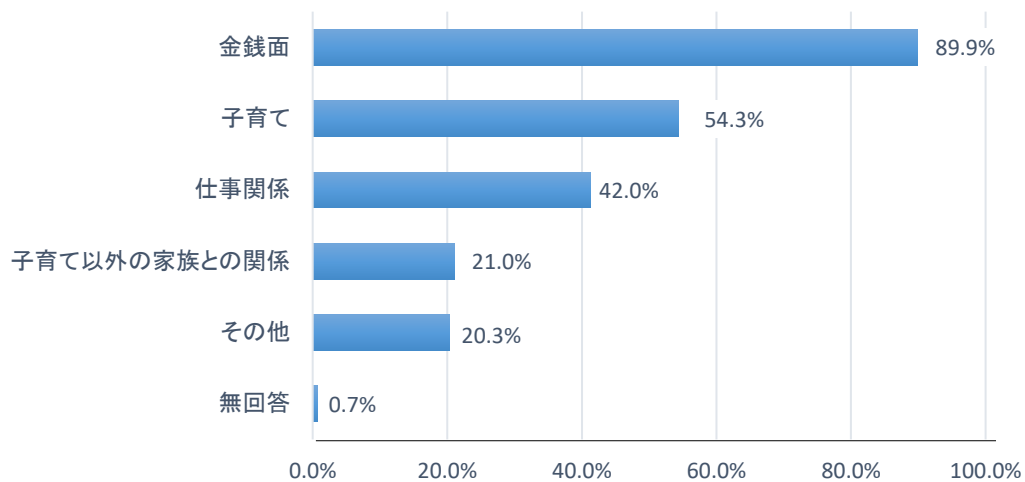
「あなたは、現在、悩みやストレスはありますか。」の設問への回答は、「ある」が 90.2%、「ない」が 8.5%となっている。

「平成 28 年度国民生活基礎調査の概況」(厚生労働省)では、悩みやストレスが「ある」が 47.7%、「ない」が 50.7%と報告されており、本調査回答者の方が、悩みやストレスがある世帯の割合が非常に高くなっている。



10. 悩みやストレスの原因（前問で悩みやストレスが「ある」と答えた回答者）
（複数回答、n=138）

図28 悩みやストレスの原因



その他には自身や家族の病という回答があった。

「その他」の記述回答(一部抜粋、原文ママ)

- 自分の病気のせいで思うように動けなくなることがある
- 自身の病気(うつ)自身の両親のかいご
- 自分の健康と仕事が切られないかどうか
- 自分の体調
- 病気で診断分らず、病院をたらい回し(2年以上)
- 今後の生活(金銭面)が先が明るくない。目処がない不安と子供の発達障害、旦那のうつ病と発達障害を見ていかないといけない不安。私1人で家事、育児、仕事を行い生活できるかどうか・・・実家とも上手くいっていないので、どちらの実家とも支援を受けられる事もないので、どうしたらよいのか毎日悩んでいます。



11. 健康や育児に関する悩みを相談できる人、回答者が病気になったとき身の回りの世話をしてくれる人の有無（n=153）

図29 健康や育児に関する悩みを相談できる人

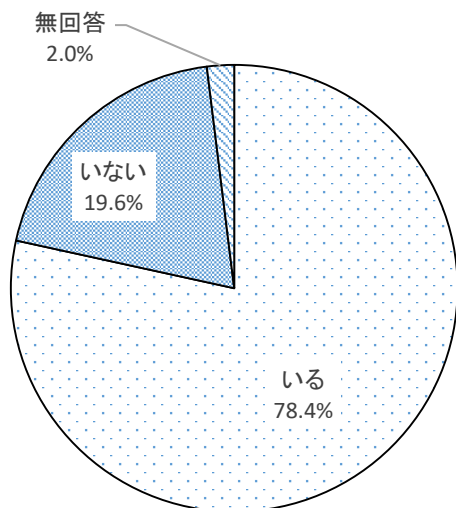
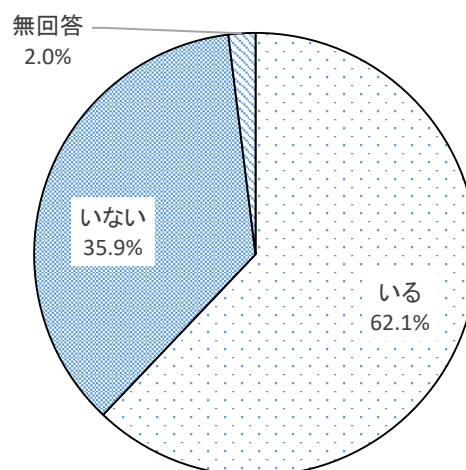


図30 病気になったとき、身の回りの世話をしてくれる人



「健康や育児に関する悩みを相談できる人はいますか。」の設問への回答に、「いる」が78.4%、「いない」が19.6%となっている。

「あなたが病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてくれる人はいますか。」の設問への回答に、「いる」が62.1%、「いない」が35.9%となっている。

2018年に当団体の利用者を対象に実施したアンケート調査では、相談できる人は「いない」が20.0%、病気になったときに世話をしてくれる人は「いない」が46.0%となっており、僅かに改善された。



クロス集計

ふたり親世帯 (n=28)、 ひとり親世帯 (n=120)

図31 健康や育児に関する悩みを相談できる人(世帯別)

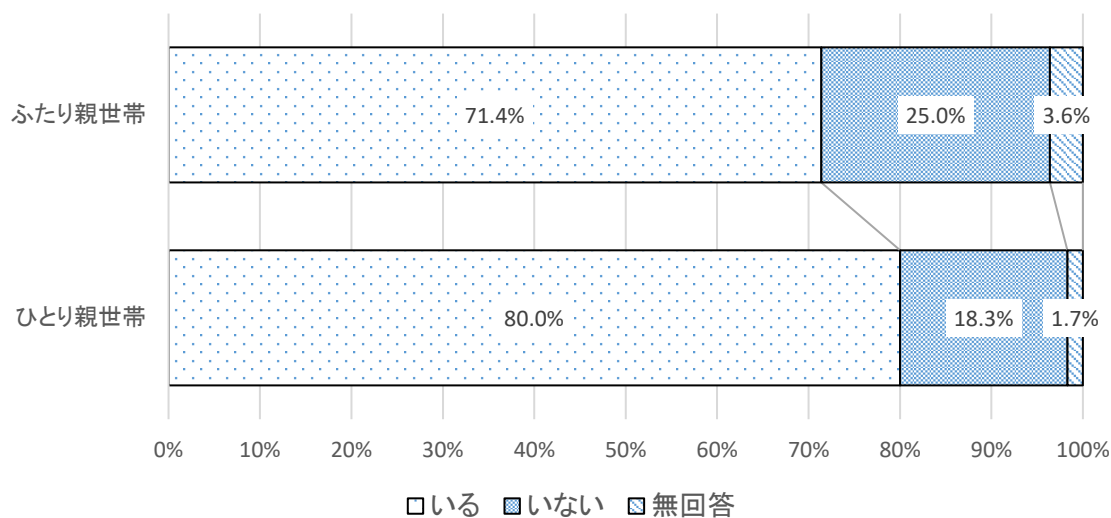
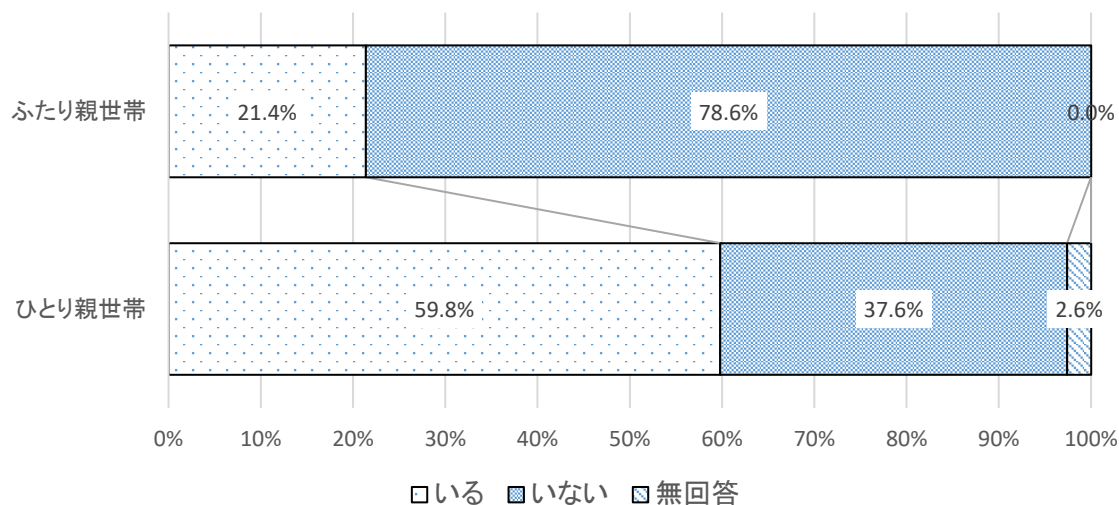


図32 病気になったとき、身の回りの世話をしてくれる人(世帯別)



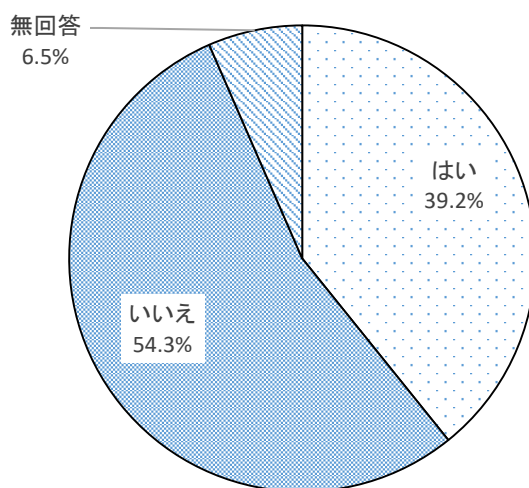
世帯類型別にみると、健康や育児に関する悩みを相談できる人について、「いる」は、ふたり親世帯が 71.4%、ひとり親世帯が 80.0%、「いない」は、ふたり親世帯が 25.0%、ひとり親世帯が 18.3%となっている。

一方、病気になったとき、身の回りの世話をしてくれる人について、「いる」は、ふたり親世帯が 21.4%、ひとり親世帯が 59.8%、「いない」は、ふたり親世帯が 78.6%、ひとり親世帯が 37.8%となっている。ふたり親世帯はひとり親世帯と比べて、病気になったとき、身の回りの世話をしてくれる人が「いない」世帯の割合が高くなっている。



12. フードバンク利用者同士の交流会の参加 (n=153)

図33 フードバンク利用者交流会に参加したいか

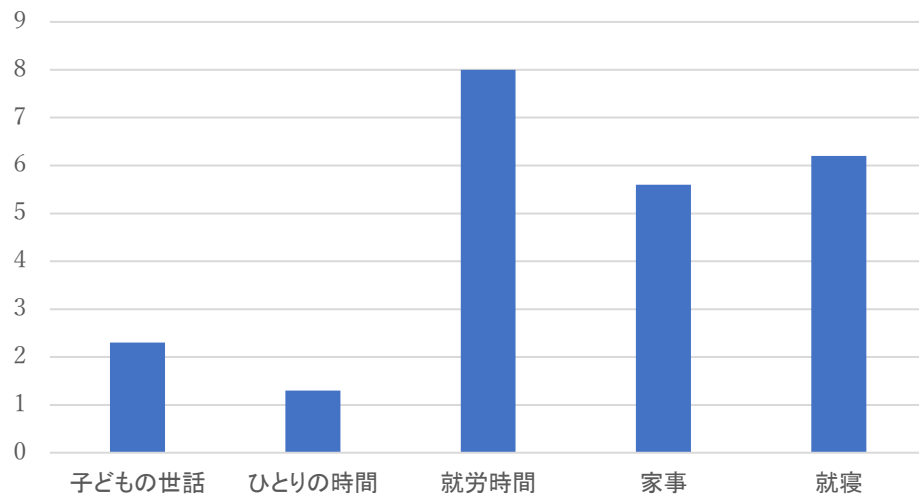


「フードバンク利用者同士の交流会を開催したら、参加したいですか。」の設問への回答は、「はい」が 39.2%、「いいえ」が 54.3%となっている。



13. 一日の時間の使い方 (n=153)

図34 一日の時間の使い方

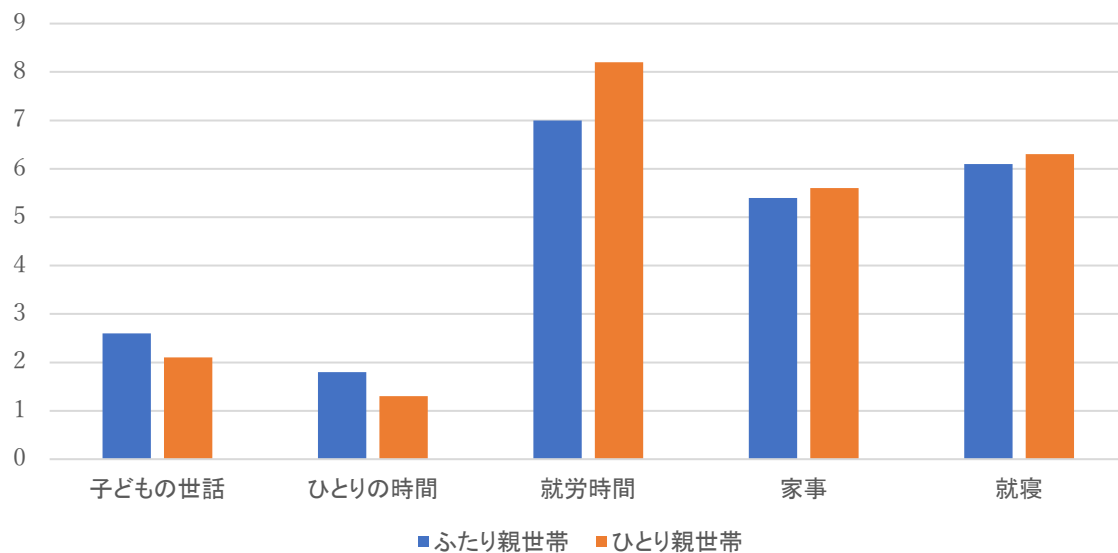


「一日の時間の使い方を教えてください。」の設問への回答は、「子どもの世話」2.3 時間、「ひとりの時間」が 1.3 時間、「就労時間」が 8 時間、「家事」が 5.6 時間、「就寝」が 6.2 時間となっている。

**クロス集計**

ふたり親世帯（n=28）、ひとり親世帯（n=120）

図35 世帯別一日の時間の使い方



世帯類型別にみると、ふたり親世帯は、「子どもの世話」が 2.6 時間、「ひとりの時間」が 1.8 時間、「就労時間」が 7 時間、「家事」が 5.4 時間、「就寝」が 6.1 時間となっている。

ひとり親世帯は、「子どもの世話」が 2.1 時間、「ひとりの時間」が 1.3 時間、「就労時間」が 8.2 時間、「家事」が 5.6 時間、「就寝」が 6.3 時間となっている。



14. 今の地域の居住年数 (n=153)

平均 12 年 5 カ月

15. 自治会や組などの地域の組織、スポーツクラブなど地域のクラブに所属の有無 (n=153)

図36 自治会や組など地域の組織に所属の有無

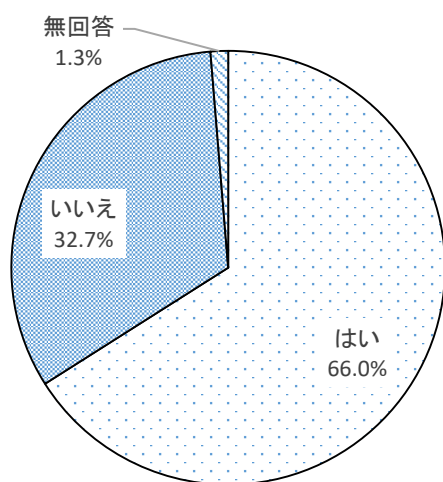
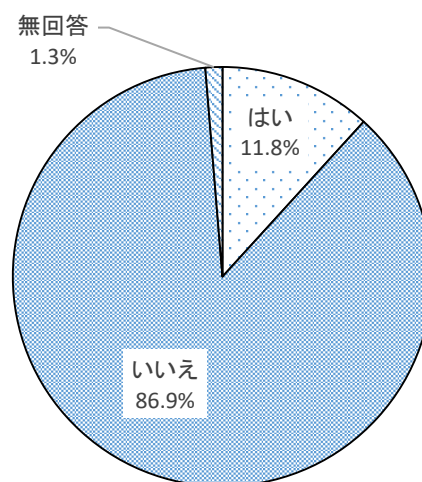


図37 スポーツクラブなど地域のクラブに所属の有無



「自治会や組など地域の組織に所属していますか。」の設問への回答は、「はい」が 66.0%、「いいえ」が 32.7%となっている。

「スポーツクラブなど地域のクラブに所属していますか。」の設問への回答は、「はい」が 11.8%、「いいえ」が 86.9%となっている。



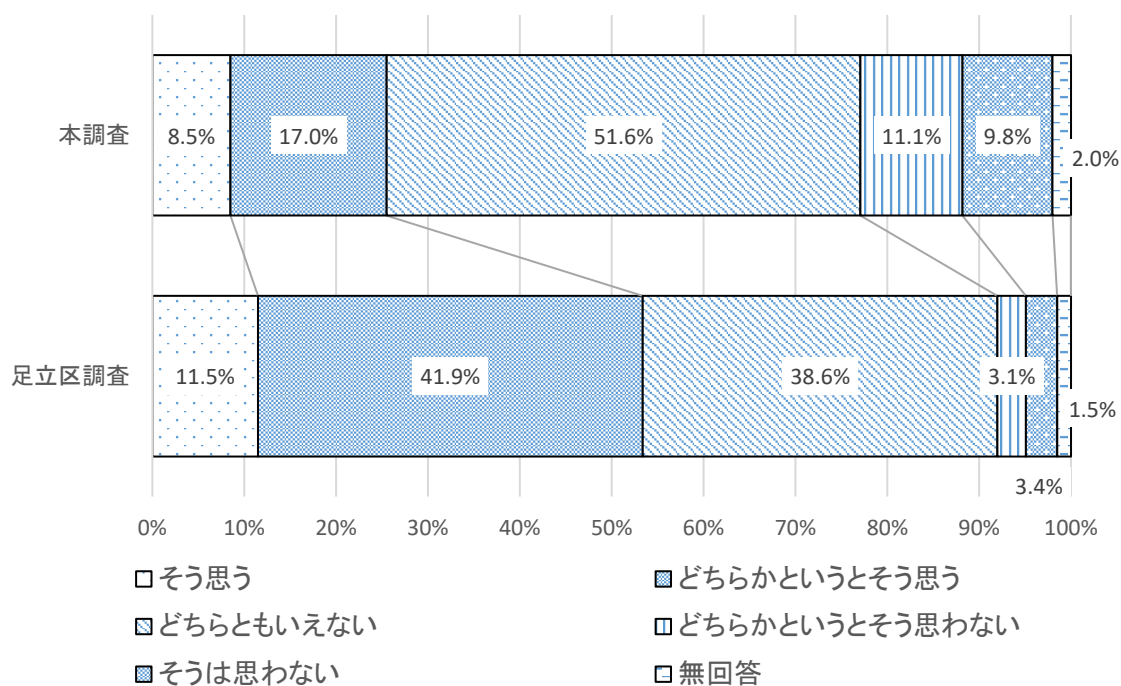
16. 地域の人々について (n=153)

クロス集計

地域の人々は信頼できる

本調査 (n=153)

図38 この地域の人々は信頼できる(足立区調査比較)



「地域の人々は信頼できる」の設問への回答は、「そう思う」が 8.5%、「どちらかというと思う」が 17.0%、「どちらともいえない」が 51.6%、「どちらかというと思わない」が 11.1%、「そうは思わない」が 9.8%となっている。

「足立区子どもの健康・生活実態調査」(足立区)では、「そう思う」が 11.5%、「どちらかというと思う」が 41.9%、「どちらともいえない」が 38.6%、「どちらかというと思わない」が 3.1%、「そうは思わない」が 3.4%となっている。

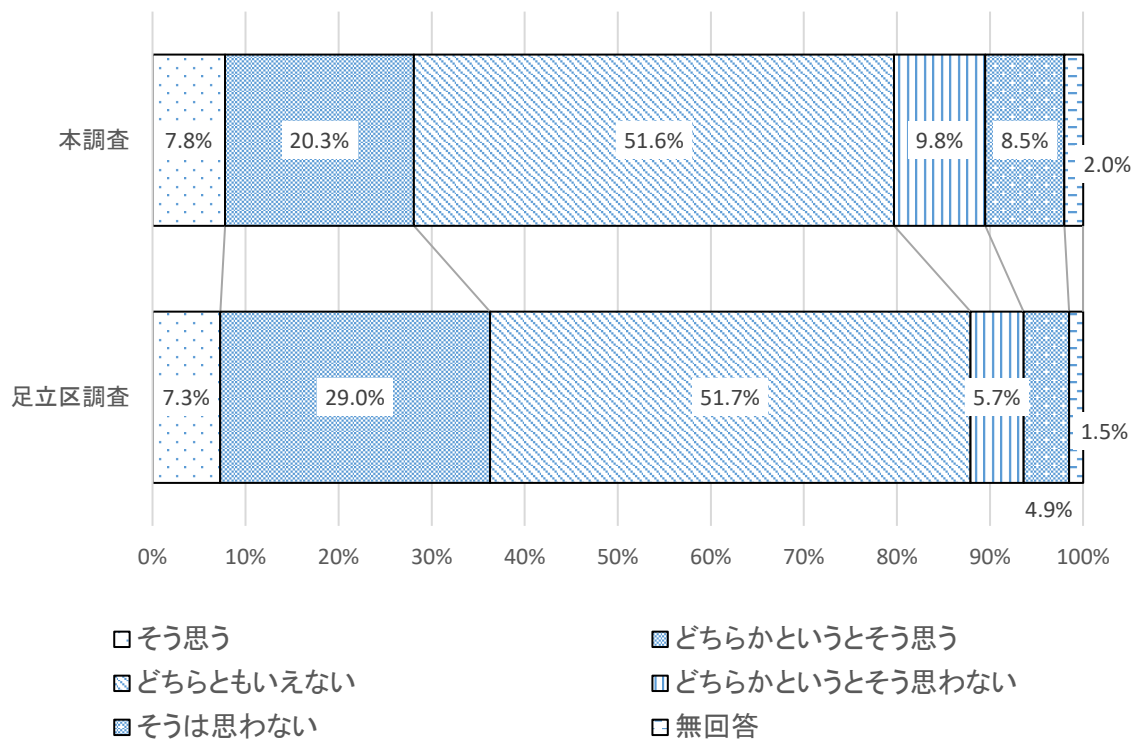
「どちらかというと思わない」と「そうは思わない」の合計は、本調査は 20.9%、足立区の調査は 6.5%となっており、約 3 倍以上差があった。



16-2. 地域の人々は結束力が強い

本調査 (n=153)

図39 地域の人々は結束力が強い(足立区調査比較)



「地域の人々は結束力が強い」の設問への回答は、「そう思う」が 7.8%、「どちらかというと思う」が 20.3%、「どちらともいえない」が 51.6%、「どちらかというと思わない」が 9.8%、「そうは思わない」が 8.5%となっている。

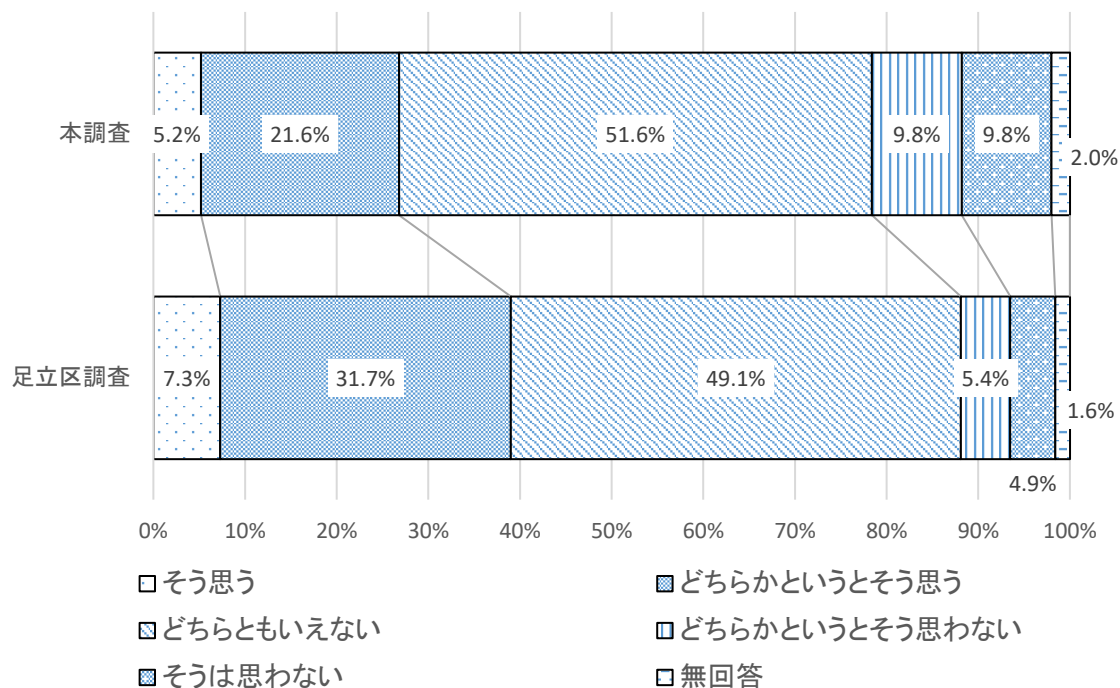
「足立区子どもの健康・生活実態調査」(足立区)では、「そう思う」が 7.3%、「どちらかというと思う」が 29.0%、「どちらともいえない」が 51.7%、「どちらかというと思わない」が 5.7%、「そうは思わない」が 4.9%となっている。



16-3. 地域の人々は喜んで近所の人を手助けする

本調査 (n=153)

図40 地域の人々は喜んで近所の人を手助けする(足立区調査比較)



「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」の設問への回答は、「そう思う」が5.2%、「どちらかというと思う」が21.6%、「どちらともいえない」が51.6%、「どちらかというと思わない」が9.8%、「そうは思わない」が9.8%となっている。

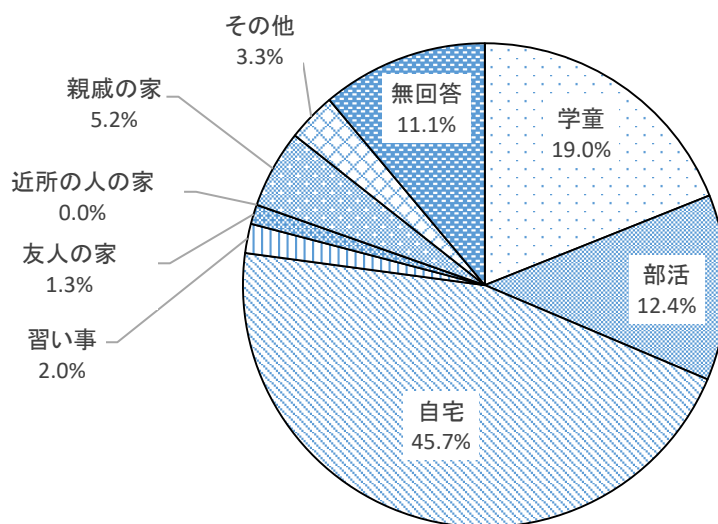
「足立区子どもの健康・生活実態調査」(足立区)では、「そう思う」が7.3%、「どちらかというと思う」が31.7%、「どちらともいえない」が49.1%、「どちらかというと思わない」が5.4%、「そうは思わない」が4.9%となっている。

「どちらかというと思わない」と「そうは思わない」の合計は、本調査は19.6%、足立区の調査では10.3%となっており、約2倍の差があった。



17. 子どもが放課後に過ごす場所 (n=153)

図41 子どもが放課後に過ごす場所



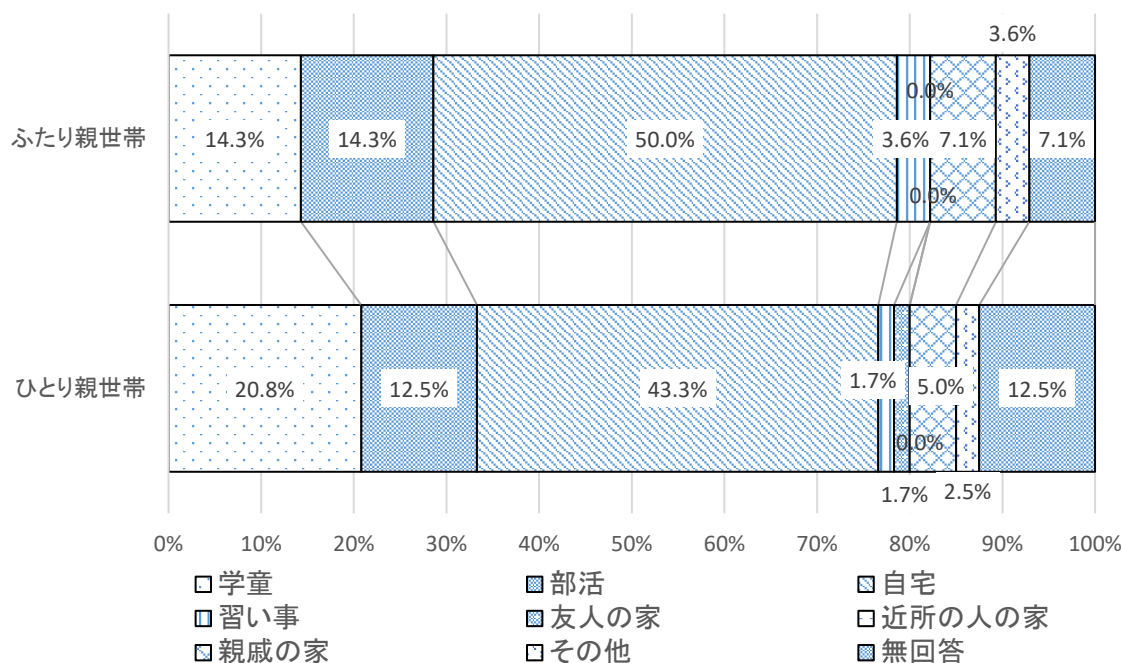
子どもが放課後に過ごす場所は、「自宅」が 45.7%と最も多く、ついで「学童」が 19.0%、「部活」が 12.4%、「親戚の家」が 5.2%、「その他」が 3.3%、「習い事」が 2.0%、「友人の家」が 1.3%、「近所の家」が 0.0%となっている。



クロス集計

ふたり親世帯 (n=28)、ひとり親世帯 (n=120)

図42 子どもが放課後に過ごす場所（世帯別）



世帯類型別にみると、子どもが放課後に過ごす場所について、「学童」は、ふたり親世帯が14.3%、ひとり親世帯が20.8%、「部活」は、ふたり親世帯が14.3%、ひとり親世帯が12.5%、「自宅」は、ふたり親世帯が50.0%、ひとり親世帯が43.3%、「習い事」は、ふたり親世帯が3.6%、ひとり親世帯が1.7%、「友人の家」は、ふたり親世帯が0.0%、ひとり親世帯が1.7%、「親戚の家」は、ふたり親世帯が7.1%、ひとり親世帯が5.0%、「近所の人の家」は、ふたり親世帯が0.0%、ひとり親世帯が0.0%、「その他」は、ふたり親世帯が3.6%、ひとり親世帯が2.5%となっている。



これまで一番大変だった出来事（一部抜粋、原文ママ）

食事	● 休みの日お米もからっぽで、食べるものもなく、朝、昼と何もたべれなかった。夜は何とか知人が食べものを分けてくれたからとてもたすかったけど、こどもたちにはかわいそうなことをした。 ● 食べ物が買えず、学費も払えなかった時は苦しかった ● 子ども2人、夜、お腹がグーグーなりながらねた事もありました。（子どもが小さい時ですが・・・）
金銭面	● お金の面で大変だったのが、上の子の高校入学と下の子の中学入学が同じ年で準備に沢山お金がかかった。高校の部活に入部するのに、ものすごくお金がかかることを知り、とても払えず入部をあきらめました。部活のカバン、Tシャツ、保護者会費、遠征費等で8万円ほどかかります。 ● 小・中・高と子ども達の学費が払えずたまってしまっています。税金も少しずつたまって、先日、主人の給料がさしおさえられてしまいました。90000円の突然の出費で生活が困りました。 ● 前の夫の借金を返せず、自己破産した。身内が山梨県におらず、静岡に帰りたいが、子供の部活とか、友達と離れたくないよう山梨県に居るしかない。 ● 離婚して引っ越してお金がなく、実家も頼れないので金銭面でとても大変です。 ● 未婚なので市民税などがかかってくる。お金がたりない。子供は色々なことに興味があるがそれを全部やらせてあげられない ● 夫が体調不良で私は育児休暇で収入がほとんどなかった時食べる事も大変でした ● 父が亡くなり金銭的にきつくなった事。今の所より安いアパートに移りたいが金銭的に今は・・・
仕事	● 雇用形態が安定していなかったので、派遣切り等で、収入が安定していなかった時も前夫の借金を返済していた頃 ● 離婚時に仕事をさがすことがとても大変でした。まだ子供が8ヵ月だったので、どこの会社も面接で落とされました（20社ほど） ● どんなに面接を受けても一人親だから受からず、仕事が見付からなかったこと。（正社員で探していた）仕事が見付からないと、生活もあるのでずっと不安だった。 ● 詐欺で300万以上を失い、生活困窮した。株式投資にてリーマンショック時にほとんど失った・・・会社倒産。 ● 仕事とお金のやりくり。育児。もっと収入がほしいから働きたいけど、そうすると子供とのかかわりが減ってしまいうまいくなくなる。



	● 条件にあった仕事が見つからず、経済的に赤字つづきで、精神的にもボロボロ。頼れる人もいなく、悪循環に陥り孤独と戦っていた ● 子供が小さい頃は、仕事が見つからず、パートでギリギリの生活でしたが大きくなった今は、自分の年齢が原因で、仕事が見るからない状態。稼ごうと思うと、不規則な時間帯や肉体労働の求人しかありません。山梨で暮らしていく為には、仕事に就くことが一番大変だともっています。 ● 子どもとの時間がほしくて転職したが、収入が減ってしまったので、少しきびしさがありますが、フードバンク様からの食品をありがたくいただき、楽しい夏休みを過ごしています。 ● 働いてもお金にならない
病気	● 毎日大変 子供の入院、手術 ● やはり、旦那がうつになって仕事をやめてしまってからが、家事育児に加え旦那の病気の事、その他市役所での手続きに私の仕事を変えたり、団地に引っ越ししたり。子供の学校の手続きから発達障害のフォローと、いきなり人生が変わってしまった事です。生活も一変し、毎日娘にバランスの良いものを食べさせるのが難しい様になり、私だけではしっかりと生きていけるだけの収入がかせげないのがふがいない思いで一杯です。 ● 自分が脳卒中で入院した時、家では大変だったと思う。子供が小さく、面倒をみながら病院にもきていたため、約6ヶ月の入院中、夫の仕事が減り、収入がほとんどなかった。退院後も薬代が高く、とても大変だった。鶏肉ともやしの料理がほとんどだった。 ● 私の仕事で子供を淋しい気持ちにさせてしまい、情緒不安定になってしまった事。(軽いパニック症)介護の仕事をする上夜勤をしていましたが、現在は、正社員からパートになり夜勤はしなくなりました。子供も以前の様に元気に明るい子供に戻りました。一時期は、学校も不登校となり友達とも話が出来なくなり、声が出ない、涙が出る、震えが出る、目を合わす事が出来ない、目の前が暗くなり、回りの声が聞こえないほどの症状で大変でした。 ● 次女の体調が急にわるくなり、医師からさいごの準備をするよう言われ、夫も会社を休んでいてその間とその後の生活費を借金して生活していました。その時の借金の返済に今おわれていて悩んでいます。次女は危ない状態から回復することができました。もうすこしで退院できます。 ● 一番大変だった事は、夫の死で、9カ月の子供をかかえながらの下の子の妊娠と出産は大変でした。事故での夫の死から裁判や検察庁等々一人での毎日をかけずりまわる日々には、現実では無事を願いながらの日々をすごしていた事だと思います。



	● もう 10 年前くらい前ですが頼みの祖母が体調不良で長期入院をした時だと思います。まだ私も学生だったので弟の面倒をみる人が祖父だけだったので本当に困る状況でした。最近では自分自身が入院をしたことで家事などが円滑に進まない時期などもありました。 ● 第三子妊娠中病気が見つかり想像以上の医療費がかかった事。就労が出来なかった事 ● 子供が夜、自宅内で流血するようなケガをしたときや仕事の都合でどうしても出掛けなければいけないときに預け先がなく留守番をさせたり、本来病院へ連れて行ってあげなければならないのに受診することができず応急処置のみでその後も様子をみるのみになってしまった。 ● 私が具合いを悪くし救急車で運ばれ入院となり子どもの事が心配でまだ調子も悪いまま退院したけれど思うように体が動かず大変でした。 ● 子供がまだすごく幼い頃、育てていくのに、病気になったり、入院したりすることがあって、その中、妊娠中だった身の時頃子育ての中、色々と人生勉強をさせてもらいました。周りに、あまり助けてもらおうとせず？また、助けてもらうことも少なかったので、その時一番大変だったかと思います。 ● 子供の体調不良で仕事を長期セーブした際、金銭面も精神的にも子供をささえるのがたいへんでした。
人間関係	● 前夫からの DV により、住居を転々としたこと。子供が不登校になっていること。(転校先でのイジメが原因)小 6～中 2(現在に至る)、教育委員会にも苦情相談済み。親が新転地での職場においてパワハラ、嫌がらせを受けていること。労基に相談済み。9 月退職。
その他	● 主人との死別の為精神的にも辛い中 3 人の子供との生活が本当に大変だった。 ● 残業後の家事→全ての時間がおくれてしまうため翌日にひびく・・・



現在困っていること（一部抜粋、原文ママ）

食事	● 子供も成長と共に食費がとてもかかってくる事等
金銭面	● 長期休みに、子供が絵日記などを書くことがない、、、どこにも連れて行けていないので。 ● 経済的な不安定からは逃れられず、メンタル的に弱ってしまう。まわりでは習い事をしている子供たちが多く、我が子にも何度も、習いたいと言われたが、金銭的余裕がなく、ガマンさせてしまっているのが仕方ない事だが、苦しい。 ● 帰宅後の娘の心配 低収入のため習い事・学習塾などいかせてあげられないこと ● 子供達の学費等払えていないです。小中学校の方は市で助けて下さってます。今回の夏休みの食料の助けがとてもありがたかったです。朝・夜と目一杯働いているので子供たちに大変な思いをさせているのが気がかりです。食事や家事、よく手伝ってくれます。 ● 自宅のエアコンが故障のため今年 2 回熱中症で運ばれた。仕事も休み収入も減った。直したり、新しく買ったりできるお金がない。 ● 私の力が足りず、毎日生きてゆくだけの収入が得られない事が毎日不安でなりません。仕事を増やすと自分がたおれてしまうか毎日の家事や子供の事に手が回らなくなってしまうので、これ以上はできず・・・これから先どうになってしまうのか、今、少し先すら見えず、どうして良いのか・・・こんなカンタンに人は生きてゆけなくなるのかと、昔よく考えずに生きていた自分をしかりに行きたいです。(今もですけど・・・)皆さん、自分の力で働いて生活していて、本当にすごいと思います。私もそうなりたいのですが、気付くのが遅かったかも知れません・・・どうしたら変わるのだろう・・・安定した収入を得て、安心した生活を送りたいです。疲れてしまいました・・・ ● 子供(上の子)が高校へ行き、援助の収入が減り、夫は体調不良で仕事にほとんど行けず収入減が私一人の為貯金をおろしながら生活をしている事。 ● 7才男、6才女、4才女、0才男の4人の子供がいます。友達にお古をもらったリサイクルショップで古着を買ったりしていますが、、下着やくつ下は新品(できるだけ安く値引きされているもの)を見つけて買っています。それでも子供の成長と共にサイズアウトしたり枚数が必要になったり・・・と何かと毎月出費しています。食費も食べる量が増えてきているので夏休みに送っていたお米はとても助かりました。学用品の援助も受けていますが、ピアノ、絵の具セット、書道セット、リコーダーと・・・これから必要になるものもお古で構わないのでどなたか使わない方がいたら頂けたら本当に嬉しいです！！おもちゃや欲しいものも我が家は殆んど買ってあげる事ができないので頂け



	たら助かります！！子供達は可愛いけど・・・何かとお金かかるー！！将来のために貯蓄してあげたいのにできてない・・・ ● 節約しても生活が成り立たない。夜も思いきって仕事に出ればいいのだけど、子供の事を考えると一緒の時間をとる思い、踏み切れない。子供優先で考えてしまうと生活していけない部分も多々あり、誰でも悩むところではないかなあ、、、と。なるようにしかならないけれども、子供がやりたいと感じていることをさせてあげられないのも辛いです。 ● 正社員からパートになった事で収入が減り不安を感じる。自分としては、正社員で働いて行きたいが、子供の事を思うと今は無理だと思うが、別の仕事に転職する考えもある。時間が中々取れない事もあり(自分の)考え、行動を起こす事が出来ずにいる。仕方なく5年勤務している現在の会社で日勤のパートをしている。 ● 主人が夜勤の仕事になり、子どもたちが夜更かししたり、言う事をきかない。2才の子は自分の名前が言えなかったり、反抗期でオムツとれないのでオムツ代がかかります。犬を飼いたいと子どもが言っていますが、ペットショップで「23万～30万」でした。とても買ってあげることはできません。夏休み中は冷房を使って、電気代が2倍ぐらいになるので困っている。12月に転職を主人がしたが、ボーナスがないので収入が毎月少し増えてもボーナスなしで、車の車検や子どもの学校入学、中学入学に準備金が足りません。車のローン、ケータイのローンで家のローンとローンだらけになり、白アリがいると言われたがそのままで暮らしていて、床もうごくし、とっても怖いです。 ● 一番心配な事は金銭面ですが、毎日バタバタと動く事があり、夜バイトに行く事も出来ない。内職など探してみたが、なかなか納期があったりすると難しく見つかりません。もっと働ければ・・・と思います。 ● 来年から高校生。時間とお金が限られている中で、毎日のお弁当作りや広がる子供の交際費や教育費のことを考えると不安しか残らず、解決策が見つかりません。子どもに働かせることができる年になりますが、大好きなスポーツ部に専念させてあげたい気持ちがあるので、今が私の踏ん張りどころと思い、日々悩んでいます。本当に子供にお金がかかるのは、ここからだ実感しています。 ● 娘の高校進学等にかかる費用が貯蓄出来ていない。収入は日々の生活で消えてしまう。
仕事	● 6月に会社をかわり、現在、早朝5時頃に家を出て静岡の会社に勤めてますが、なかなか家のことができず、又、精神的にも肉体的にもきつい状況が続いています。子供2人には、やりたいサッカーを続けてほしいのでがんばるしかないですネ。



	● 私の年が年なので仕事の中々決まらず、就職活動はしているのですが、面接に行っても年齢で不採用になったりで困っています。来年は長女が高校進学、二女は中学進学でお金が掛り何とかしなければと思っているのですが、そんな現状です。 ● 賃金のベースアップがなく、転職等も考えているが、40 才すぎでの正職も少なく悩んでいる ● 現在は主人がウツで就労がままならない ● 今月は会社の仕事が減って、休みや半休があったりして、パートなので収入がだいぶ(お盆休みもあるので)落ちるので、やっていけるか心配です。仕事をかえた方がいいか悩みますが、今の勤務時間や子供の行事などで休みをもらえるかなどを考えると、どうしたらいいのかと思っています。子供が寝てる時間にバイトをしようかとも今考えていますが体力的にいけないか心配でまだ働いてませんが、転職するか仕事をかけもちするか検討中です。
人間関係	● ひとり親ではない、子どもの同級生との付き合いが大変です。同じように物を与えることは不可能だし、平日昼間に連絡とり合ったり、遊ぶ際の送りむかえなど…。生活レベルも時間の余裕も違うから、できれば付き合いたくないが子どもにはそんな事言うわけにもいかず無理をしてつかれていまいます…。すみません。グチみたいなことを書いてしまって…。 ● 今はこれからの住まいや、両親の年金もないので子供にランドセルや洋服があるのか。あとはこのいい意味の田舎ではなく悪口ばかり無視ばかりの田舎で子供育てて行く事。町役場は子供を児童相談所に預ける事しか考えてくれません。ちゃんと食べれないのは子供の成長によくないと…。なのでフードバンクはとても助かりましたし、1 回でも食べれると言う安心感でストレスも 1 つ減りました。本当にありがとうございました。
その他	● 色々大変な事もありますが、嬉しい事もあり、今が幸せだと思えるようになりました。子どもには、不自由なく過ごさせたい気持ち(塾行きたいとか、スイミング習ってみたいとか、色々言ってますが、、、)はありますが、むずかしく、、、悩んでも解決しませんが子どもには何とかしてあげたい気持ちは、これからも悩み続くようですが、、、今を大切にしていきたいです。今も色々と食品を送って頂いたり感謝しております。 ● 大変なのはあたり前で…何に困っているのか分かりません。 ● 時間にも、気持ちにもお金にもまったく余裕がない毎日を送っています… ● 子供がいてくれるから頑張れる。それはもちろん。でも一人で子供を育てる事は決して甘くはなく実家には甘えられず、いつかは両親の介護も…長男が高校卒業するまでの 6 年間でとても長く感じます。正社員として働く勇気もなく、パート先も不安定でいつまで勤められるのかも不安です。健康面もつな渡



	りな感じで不安を並べたらきりがありませんね。何とか前向きに生きていきたい。助けてほしいと言えたらどんなにいいか・・・もちろん今も助けてもらっている事はたくさんありますが・・・乱筆にて失礼しました。 ● こうしてお米とかをいただけてたいへん助かっています。高校に向けてどのようにしていくかまたまた考えながらひび生活しているだけです。 ● 何かあった時に助けてくれる人がいないため、何かあった時に困る。1 人の時間がないのと、あってもお金もないため行きぬきが上手くできない。子供の食の好き嫌が多いので困る。私自身、ごはんを作るのが嫌で、(にがて)どうしても買ったりするため、お金がかかる ● ・就学の助成金の書類を出したが、私が国保ではないと言う事で、今年は助成金をうけられないと言われたので、助成金なしでのやりくりが心配。・学校でおさがりの体育着をもらえる制度があったらいいと思う。穴が開いてても汚れがあっても運動会シーズンは毎日着るので着替えがほしい。・今の仕事が半年更新でいつ切られるか心配 ● 食べ物だけではなく生活用品も援助してもらいたいです。子どもの服、くつなど中古で頂けたらありがたいです。一時金の制度があれば助かると思います。貯金も無く、本当に苦しいです。 ● つかれている。休みたい ● W ワークしてるので、夜自宅に子ども一人にしているのが不安です。
--	--



VI. 質問票

2019 年度フードバンクこども支援プロジェクト

生活状況に関するアンケートにご協力ください

暑さが厳しくなっておりますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

このアンケートは、お子さんのいらっしゃるご家庭の実情を把握することで、厳しい生活状況を少しでも改善するために、どのようなことができるのかを検討することを目的にしております。そのためには皆さまのアンケートへのご協力が必要です。

フードバンク山梨のこれからの活動に役立てる為に、ぜひご協力ください。

フードバンク山梨は、皆様やお子さまの笑顔を増やせるよう、これからも力を尽くしていきます。このたびの「フードバンクこども支援プロジェクト」が楽しい夏休みの一助となることを願っております。

アンケートは、8 月末までにご返送をお願いします。

※同封の返信用封筒にに入れてご返送下さい。

・アンケートへのご回答については、集計し、個人の情報の取り扱いに十分注意し、個人が特定されないように配慮して報告書に取りまとめます。

・アンケートについてのご質問は、以下までお願いします。

認定 NPO 法人フードバンク山梨

〒400-0214 山梨県南アルプス市百々3697-2 電話：055-298-4844

(平日 8:30~17:30 担当 足立)

はじめに、あなたとご家族についておたずねします

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. その他 ()

1. お子さん（ 人） 2. 子どもの母親 3. 子どもの父親 4. 子どもの祖母
5. 子どもの祖父 6. その他（ ）

1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人
5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人
9. 10人以上

1. 離婚 2. 死別 3. 未婚（過去に結婚をしたことはないが子どもがいる）
4. その他（ ）

**問3 あなたの雇用形態に丸をつけてください。(1つに○)**

1. 正規の職員・従業員（正社員・正職員）
2. パート・アルバイト
3. 契約・嘱託・臨時・非常勤・派遣など
4. 自営業主・家事主事者（主婦、主夫）・内職・在宅請負など
5. その他(具体的に)
6. 無職

問4 世帯全体の1年間の収入に丸をつけてください。(1つに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 収入はない | 2. 50万円未満 |
| 3. 50万円以上～100万円未満 | 4. 100万円以上～150万円未満 |
| 5. 150万円以上～200万円未満 | 6. 200万円以上～250万円未満 |
| 7. 250万円以上～300万円未満 | 8. 300万円以上 |

問5 あなたの貯蓄はいくらありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 貯蓄はない | 2. 50万円未満 |
| 3. 50万円以上～100万円未満 | 4. 100万円以上～150万円未満 |
| 5. 150万円以上～200万円未満 | 6. 200万円以上～250万円未満 |
| 7. 250万円以上～300万円未満 | 8. 300万円以上 |



問 6 以下の項目について、毎月おおよそいくらかかっているか教えてください。

1. 食費	約	円
2. 住宅費	約	円
3. 光熱水費	約	円
4. 教育費	約	円
5. 保育料	約	円
6. 通信費（携帯など）	約	円
7. 医療費	約	円
8. 娯楽費（交際費・ファッション費・映画費など）	約	円
9. 貯蓄	約	円
10. 保険料	約	円
11. 借金の返済	約	円
12. その他（ ）	約	円
13. その他（ ）	約	円

問 7 年金の積み立てはどうしていますか。（ 1 つに○ ）

1. 国民年金 2. 厚生年金 3. 扶養 4. 払っていない

問 8-1 理想ではお子さんにどの学校まで行ってほしいですか。（ 1 つに○ ）

1. 大学またはそれ以上 2. 短大・専門学校 3. 高校 4. 中学
5. 分からない

問 8-2 お子さんの現実的な最終学歴はどこになると思いますか。（ 1 つに○ ）

1. 大学またはそれ以上 2. 短大・専門学校 3. 高校 4. 中学
5. 分からない



問 9-1 あなたは借金をしたことがありますか。(1 つに○)

1. ある 2. ない→問 10-1 に進んでください



問 9-2 問 9-1 で「ある」とお答えした方にお聞きします。

あなたは現在借金をしていますか。(1 つに○)

1. している 2. していない→問 10-1 に進んでください



問 9-3 問 9-2 で「している」とお答えした方にお聞きします。

借金の総額はいくらですか。(1 つに○)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 50 万円未満 | 2. 50 万円以上～100 万円未満 |
| 3. 100 万円以上～150 万円未満 | 4. 150 万円以上～200 万円未満 |
| 5. 200 万円以上～250 万円未満 | 6. 250 万円以上～300 万円未満 |
| 7. 300 万円以上 | |

あなたご自身についてお聞きします

問 10-1 あなたは、現在、悩みやストレスはありますか。(1 つに○)

1. ある 2. ない→問 11 に進んでください



問 10-2 悩みやストレスの原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 金銭面 2. 子育て 3. 仕事関係 4. 子育て以外の家族との関係
5. その他



問 11 健康や育児に関する悩みを相談できる人がいますか。(1 つに○)

1. いる 2. いない

問 12 あなたが病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてくれる人はいますか。(1 つに○)

1. いる 2. いない

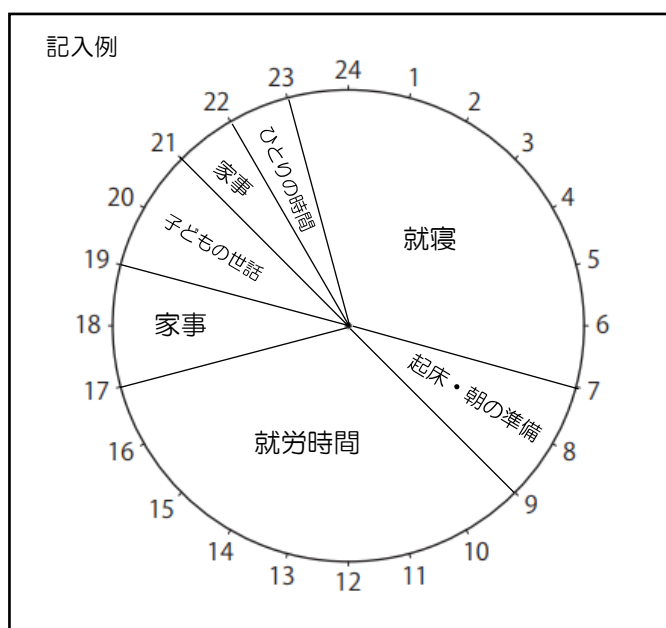
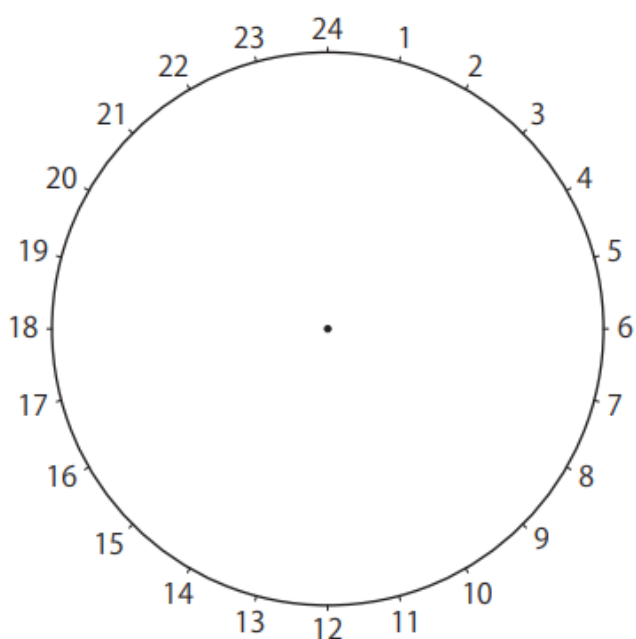
問 13 フードバンク利用者同士の交流会を開催したら、参加したいですか。(1 つに○)

1. はい 2. いいえ

問 14 一日の時間の使い方を教えてください。

※一番よくある日の過ごし方をご記入ください

- ・子どもの世話 ・ひとりの時間 ・就労時間 ・家事（食事、入浴含む） ・就寝





問 15-1 あなたは、今の地域（同じ町内会くらいの範囲）に何年くらい住んでいますか。

通算 年 ヶ月

問 15-2 自治会や組など地域の組織に所属していますか。（1 つに○）

1. はい

2. いいえ

問 15-3 スポーツクラブなど地域のクラブに所属していますか。（1 つに○）

1. はい

2. いいえ

問 15-4 あなたは、あなたの住む地域（同じ町内会くらいの範囲）の人々についてどのように思いますか。（それぞれ 1 つに○）

	そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思わない	そうは思わ ない
1)信頼できる	1	2	3	4	5
2)結束力が強い	1	2	3	4	5
3)喜んで近所の 人を手助けする	1	2	3	4	5

問 16 お子さんは平日（学校へ行く日）の放課後、主にどこで過ごしますか。
（1 つに○）

1. 学童 2. 部活 3. 自宅 4. 習い事 5. 友人の家
6. 近所の人の家 7. 親戚の家 8. その他（ ）



問 17 これまで一番大変だった出来事を教えてください。

問 18 最後に、現在困っていることやご要望・ご意見がありましたら、自由に記述してください。

アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

アンケートは、8 月末までにご返送をお願いします。

(※同封の返信用封筒にいれてご返送下さい。)